



橘ノ香ヲナツルニミホリキス
花散^ニミヲタツテフトフ

△花散里 八

橘ノ香ヲナツルニミホリキス
歌ヲ名トセリ

源亦四ノ夏ノ事云

手ツカサト云ミヨシ 世末ニリラ色ニノアマリ
 人^ニこれぬ心^ツつ^クの^めおし^きら^しし^き ハハ ハハ
舞舞ノ白虹自ツラマクト云又九選ノサタラシ
 え^んわ^づら^しら^しら^し ミ ミ ミ
スニガクキ人多キト云
 心^ニお^もて^し ハ ハ
浄服ハ浄子モキト云
 散^と ハ ハ
御景殿妹ニ蕃目ノ花散里ト云
 後^ニ ハ ハ
禁中ニ世所ト一所ニミリストキ原ヨヨニ玉スレ
 の^を ハ ハ



— 名義例の心なれどもすむよわれ
しんそぬりぞわごとりそなりぬねよ
人の心よのこけく— こそあづる紙
しげはゆりことなりく^{内子ハウタロコモハシトクノナレ}みぢりせの表
のく^種いといよあひひぬよあびごて
こそぬれのそらゆり— うちらやま
よわ^{花子ルエ}り^{赤ノシカクトモ}ぬ^赤はよむりの^種いひ^種く
らやつ— ば^赤前^赤なご— ことよなりぬび
^{てイ}ぬ^赤く^赤な^赤く^赤りの^赤種^赤あ^赤し^赤そ^赤ら^赤よ^赤さ^赤さ^赤や^赤
がら^赤表^赤の^赤本^赤ご^赤ら^赤ら^赤な^赤ご^赤の^赤— じ^赤あ^赤ら^赤よ^赤—
う^赤ら^赤こと^赤と^赤あ^赤づ^赤ま^赤よ^赤き^赤づ^赤て^赤— ^{フメツラ}く^赤く^赤い^赤あ^赤し^赤也^赤は^赤ぎ^赤
^(和狂)

— しくひい^赤な^赤く^赤せ^赤ア^赤り^赤は^赤こ^赤こ^赤ま^赤わ^赤て
う^赤ど^赤ら^赤う^赤や^赤う^赤あ^赤な^赤れ^赤じ^赤せ^赤う^赤— ^{車ヨリ}い^赤て^赤
み^赤つ^赤れ^赤り^赤く^赤ど^赤お^赤ほ^赤い^赤か^赤ら^赤ら^赤れ^赤本^赤の^赤よ^赤ひ
ぞ^赤よ^赤ま^赤つ^赤りの^赤比^赤お^赤か^赤— ぞ^赤ら^赤れ^赤て^赤そ^赤こ^赤ハ
う^赤と^赤な^赤く^赤け^赤い^赤ひ^赤お^赤— さま^赤い^赤ご^赤い^赤も^赤あ^赤ん
ぬ^赤ト^赤や^赤ど^赤り^赤う^赤ら^赤う^赤と^赤お^赤ひ^赤ひ^赤ぬ^赤よ^赤ご^赤な^赤の^赤ぞ
種^赤よ^赤ら^赤う^赤と^赤お^赤ほ^赤あ^赤— け^赤と^赤は^赤ま^赤— け
れ^赤ぞ^赤す^赤う^赤い^赤ぐ^赤そ^赤よ^赤や^赤そ^赤ら^赤ひ^赤ぬ^赤あ^赤わ^赤— しか
と^赤こ^赤ご^赤あ^赤ら^赤う^赤そ^赤わ^赤ら^赤う^赤— ^{子親ハツニエナク尊ナシバ感ラモヨホス}い^赤こ^赤う^赤
が^赤な^赤れ^赤ど^赤は^赤車^赤と^赤— 人^赤ぞ^赤め^赤て^赤例^赤の^赤
種^赤を^赤い^赤れ^赤の^赤よ^赤

原 百廿四下葉

とらりえりえぞあはれぬ時をりめ

らひーやどめうさうのよきん殿とぞうさ

をの西れつまよんごわらわら双前モ清使シテれくしす

うらゝんがられぬ非也こもげうらうらこ

とていせうそこまゆわらやうあうらまご

あまこしてあはれなくうら

非也ウサ

時をりえりえぞあはれぬ時をりめ

れうかさみづれめそ非也と誰人トと

られぬ非也うらうら三ツカヌもそいづる

とくあはれぬ心よ女中トモいほくも長ももるり

あしほくし原トダ(五)ハことぞうらももれ

花散庭梢モ成リテ
ウハシキキモエコソニハカチ
カコハトヨヒキノカキネリ
シハウエカキモセニケリ
アヒニケリ

五節ノ舞ニシヨリ各トヌ

むさずぐうら原のまきし大蔵ノ女れ七五節

そらうらげうらうら地とまうらうら

げ地うらうらつけして心めいともまなくこ

一月とあそもしくうらげうらうら

よらうらわのうらげくもぐらぬぬ

ーもなうらうら花散の原れ花散り

なうらうらのかいの原あ原らうら

もころくく女なくきうらよてあそもるうら

ゆとみぬし原と原あ原ま原げ原女原神原の原れ原

えそいしれ原の原あ原ま原ど原あ原し原ぬ原あ原

うげようら原れ原の原あ原ま原ど原あ原し原ぬ原あ原

原ハナニシニストキ統紫ヨリ上げ
大蔵ノ女
七
ヲトツシケリ

イニニ度カケスハ子規
イハニシリテカケル声ニナク

本どくさうげどもこぐさう足しらすりて
りくさう橋のつらなりさうしくにかひて女
沛のかけもいれびにされどもわくまてよ
ういありあてよらうさうげつりせぐれて
んかやりやういさうなうりーうどせ
いませーうならうーいよいさういあー
ゆとよもどさお方しぬよつけていじい
のことうさいつい縁あはされてうちなりこ
流時をりあつうさういれよやああどい
よららあくさういひさうよげうあとおが
取し福しえんあわーいよさうりてうあど

橋ノ香ヲナカシニホトキス
カケラヒシツナカヌ目ツナキ

あびやうらりぞいぬ

原
子規ニヨソシテ原ノトコモフラス
こらさのうをならうーい時をさうらう

星とあてぞいさういへわされぐさ
あさう流へくあさうさあよさうらう
ゆりあびやうらりこよなうくせまきうこ
ともしもさういしゆれおほされせ
よまういよりのなれをいさうらういさう
あべいんあさうあゆくまういさう
はれぐさういさういさうあくあひさう
んとあさうあよいさういさうせなれどゆ
とよいあそいさういさういさういさう

何いしぬも人のれいぬしよや
これぞせいよらう

兼

人あなしくわれらうやどいしらさ心のさ

そのうこれれまともわられことらめぬ

つらもさいんども人よいことやうりうりせ

さうくくらう西あひそはわがとせうく

あひやうらあまひなてめそいぬ

うらしめうらさよきてせよあなれぬ

いさぬがれをれしきしわなれぬしな

よあもと何のがうしうらうひぬ

しあはぬいよあはぬいしあうし

アモテト云ニナルニ秋ラナクサハト云

原心 時ニ過玉ハヌトハ

花散ハ形モサホトナシト云

原中出ノイラノグノト云

ト云ハ秋ノイ

ト云ハ秋ノイ

みぬうぎあはくうらぐてめいもよい何
祢をよやぬぐよつけてよふひや
とおほらういながらわらうげあ
柳しくしなるけとうらつてもぐらぬ
うあうらぬれとあいなもあふ人いよ
うよらうらしとこりのせれさうもい
うらぬよりのつらういしあうらえら
うらぬらうらあうらあうらうら

松嶋ノ管ノ管ヤモイカナラニ
次ニノウラノニホクニコロ

△次ノ

九

哥ト詞ヲ名トセリ。原亦丑ノ三月ヨリ翌年ニテ

世中（此ノ選トハ物語ノ表ニハミ）ト云フ（テドその内ト遠流ノカタレ故）自都ヲ去リ内磨（下リ五マ）

まされむ（此心）せせりきりぞぐかよりのへても

え（肉ヨリ遠回テド）ちりまきりことむねとおほりきりぬ枝

你（此心）ハじりそ人のきりうたのどもりりら

流（此心）まはるとまむられ心をうてあまの

疾（此心）ぶよまれよるどまのへど人あげくひ

うけこんせまのいよ（都ヲ去リ）かいなうぐは

いとそおととほごしんしあつまおがら

うなうらまこと人らうくぞまうみぶるまよ

ろげめことまうしひまらつてけおまよ

叩（此心）ニタケ
カニスニキ

テ第ノミニカメハワカルモ
行ククリテモアハシトフヨモラ

所登ハユクエモシスバニモシ
逢ラキリト思フバクリン

うかゝいこといしきぬぐさううさりもの

ふせつつかしきまふせしころあれなりんと

おぼせよふともせてごつふいともおほらち

よし姫君のけられよきて九世ラおひなげ

ふしぬくさぬめ心づかひなりよしともあれ

だれて長なりとけりあぐりてしきいひ

ふんととるあぞとおぼふんそごよふかと

一二日の程もせくよいしくせありく

ごよおぼつうなりぬよそし業女君も心づか

のこめふぬくると九世ハ三斗重科ハ六斗ト云リ係ハ自去リ玉ハ似京イットシ

あうみらししあぞあふとくごあよあぶ

うわゆんしきいちなういせよやぞわら死別

べいこうぞごよしやといこうぞうそしぬ

あびてもらともよもやもきりうりあり

あれどころいがそらん海づめの波もよ

よかよふらまうい人となんよ業

ら〜い〜いぬい〜い〜い〜い〜い〜い〜い

とつ〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い

まが〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い

〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い

ぶとあしひきて〜い〜い〜い〜い〜い

うのふら〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い

在原シゲ重治甲斐
回下りし通三人病ツ
イニ今ハノトキ京母
カリシメキセトゴト思フコシ
今ハ限ノヤドラナリナリ

まれあれ心づかしく長からうにありは後と
 こ原のいげよふれてゆ—のいごうごうが
 げ—とそ—うさぬ—とことらありうな
 とぞありてもがめ—のみありういぬい
 —所—くふれぬ心とくごういぬ人ぞあは
 りうう入道のま—ありしぬめあま—
 いとどり例ハ入道トモうらん—と、これ—あはし—
 どあびつこれとあひつひよありし—
 やう—あひあひ—長ともんせぬ、ま—
 ぐと—うららひいぬよ—
 のしづくせぶりうう人のぬ契うおとれ

原心 昔にシカケトキ如此念比
 アラハレシ
 カラニニ又
 念比ナルカ
 ぐ—ニシツク
 ス物トヒ

ら—ふあ—ぬ。二月らう—何まあれ福よ
 かんみやこ西光ハ入道ニシテトリらぬうう人よ、いまとも
 ち—也ぬんぞ、い—とらう—れ—ま—
 なられ—う—う—て八んぞありし—と—
 しようう—を—お—らぬさうい—あ—
 ね又ぞありわぶとあ—ぞ—うらぬいぬ—
 のしも長と—の—むらむらう—け—ぬ
 ぬいみぬしもあ—づ—う—と—ぬのありぬ
 心らのま—ぬれよ—う—ぐ—く—も—
 ぞううよ—う—二—日—の—お—ぬ—よ—
 兼よ—く—れて—ま—あ—の—り—わ—ド—ろ—車—の

西宮元大臣安和二年三月廿六日九近太宰府云々ニヨク似たり
 一説ニ兼式ノ西宮元符ノ思人ニテた近ノ原氏ニ説メズリトノ

うちやつれはうらよめ草めやうそてくろく入
 あよ乙と長よ原ト養ノスミトシ後とのこ又あほ申お申思申れ申い申い申
 とらびーげよわれうらうらーてわら申ま申
 のれめれとぞ申いじ申ー申さ申や申ひ申ー申人の申よ
 まどらうぬうぶううくわらわ返つうとめ
 づーづわあしてまうのがわははひて
 みまうよつげてし申とよめううらぬわう
 へいんぶうんせめはひのうい申とて申れて申回申く
 け申わ申ま申ま申い申し申う申け申ー申そ申て申ぎ申れ申ー申
 りかち申ー申わ申ひ申い申い申い申福よわれぬれ
 氣がうれしていざよ申ん返申う申に申く申ま申い申び申

さいげうり原ト下お申い申こ申あ申い申わ申ら申返申て申さ申
 け申ー申返申り申返申れ申ぐ申よ申こ申も申で申あ申つ申ん
 福申が申よ申と申い申ぬ申い申ー申物申流申ま申ま申り申ま申え
 まし申ん申と申ふ申あ申れ申ぞ申かれ申ま申ひ申よ申
 こ申よ申う申ら申あ申は申や申け申よ申ま申れ申ま申つ申ぞ申位
 とも申ん申ー申を申り申て申は申わ申い申く申ー申ぎ申ぬ申よ申
原ト吾メニルノ外ニ出ルラム
 こ申の申て申あ申ど申め申の申ま申い申ひ申ぐ申く申ー申ん申
原ト今ハ世中ニウツルノ人ニカヨモ侍ヨ縁
原ト吾メニルノ外ニ出ルラム
原ト今ハ世中ニウツルノ人ニカヨモ侍ヨ縁
原ト吾メニルノ外ニ出ルラム
 こ申ら申れ申と申み申返申あ申う申つ申けて申命申な申ま申い申ハ
 こ申く申あ申り申ま申り申返申せ申の申ま申し申得申れ申

あめつらササセニオストモ
 下アアアトトトトト
 日本記
 神功皇后ニ轉ラ征シ
 東日更西出所礼册社
 河遊流河石上皇トナ
 ニナキリハ所謝物ヲ退轉
 セシト云ルコトアリ

あめのつらさぬはなりてしとぬゆ
 ざりしありきぬとみぬれむよろげいと
 ありうなるかんとおしめてさうさか
 ぬぬとありともうらうらこのせれじ
 くひよそゆなれじいりそゆげじさみ
 づしめとこいなりんゆらうてく官
 舞とさられぞあこしりりことよさづ
 いしてさよあゆむのしこまわなるの
 りうしぎぬそせ中よありあうじがと
 ゆえいあざよひとのあうもあゆらうぬ
 こくしなりはらもさづいささあなめとせ
表流し

ゆらうらうらぬとがうつこよあさづこいよ
 こそゆなれに我あなういよまうせてつれ
 うくそぐはるんもと新あひてこ
 此あゆむうらうらうらよのぞまぬぬ
 よせとのれがんとふあうらわらあぞい
 ぬやうまよこしぬ新のれぬ流院のれこ
 とさうのぬせし心どあぞあしぞ
 めてれが原の油と引とかりぬぬよ
 ぬもえ心づうとそとぬとぞわ
 ぬめぬ心づうとぬれかりさそこれぬよ
 ぬれあしぬとさうとさう新ぬよ

やんばいのけさよ人よもなまげなりきと
心とれん人しとあしそんときあし
いほろせとらあかよふんぞりつこと
なよとよとむらめぬていづとと
へらうぬ人らりことりつことらわ
りみこいしとらりつことらわ
こよらりよまてせのあしとわづら
こてととづしあしぬしぞれとあひま
よわらぬぬと人のあしんととら
く申こしぬをもてやなましと
の山のうなとれは世はぬらわし
てい

茶ノ母祖母今又際

イカナラニ若ホノ仲ニ短カス
世ノウキコトノ例(コナラ)

のあしととらぬゆしやふん
ぐよつけてわれぬ人ぬとめぬい
とさりたうあありてりまきとぬ
う心うけれぬをうわしとてとと
うこしぬしぞれぬとぬとぬと
ぞ長がうりぬありとぬうり
ううて年存とと岩名の中よし
まらんごまのいよまのいよま
あふいかりおほやけよま
人んあふうううううううう
やせうううううううううう

おしうなむらやまらなむらじれどさうり今こいよ
そころうこととあわれとさふまますてさふく
くらりハ例なることなるよひこまことむむい
よ也くくめーせうそこヨリニナルコトモ
りりなるなどあしうせぬ日くくうまぞ
おほよのこむり学持ちまはし仲又二位中おなとあし
しーり原いりー流んそそれなるそーまとい
てまうつ位今八條名しがさくそそいりんのあな
とー中こいもなりーまこよこさぬてうら
やつれぬけりそぞとさーいびんうさぬと
さぬさういよーりぬけりよあしやさぬ不

げのりれかづいことあてよまうあうなれど
こよ原なうそとろくようれびげあぬよ
やあせてゆる衣けうわぶいぬとのぬを
女美ま回といとちうけてみよこせのけりいと
あびびごー

原かしくてさそくぬいもまうあうあさ
らぬさこのげんもかれどとあしぬた
わ美れてしげぶまこまう物あしを鏡と
みてしなるぶあてまイハレシいぬいぬくてら
らぐくれよわくれてなみいとまぶさる
しぬへうさぬれうらうら中よたぐひか

わたりとてきりてきりて人のいかりの便り
みこい義なりと地内えいして遊てくちり程よ
入り流ぬさ原心らり里の心がそげよきりて流
流よきり流しとちりてり原心人といま
ひとこびんせいのしりしとやあそんとあが
せむその教んまきし出流りのしりし業ノチヨリセルガゆりく
ててきりやててきりしとてきりし原心女中くきりせ
ま入流てきりしとせ流りきりしとてきりしとてきりし
流さぬ原心うしりしとてきりしとてきりしとてきりし
うがそいしりありとてきりしとてきりしとてきりし
てきりしとてきりしとてきりしとてきりしとてきりし
人数

じりきりやれて教の目いとうきりあり
目おぼり原心とてきりしとてきりしとてきりし
わきり心がそげよきりしとてきりしとてきりし
とてきりしとてきりしとてきりしとてきりし
よきりしとてきりしとてきりしとてきりし
とてきりしとてきりしとてきりしとてきりし
まきりしとてきりしとてきりしとてきりし
とてきりしとてきりしとてきりしとてきりし
あきりしとてきりしとてきりしとてきりし
がわよりり原心とてきりしとてきりしとてきりし

古事
ア三相三物思フ此秋神
ヤル月ナ(スル)ナカ

んも又いえりもやとふことなりしを
グつろ年ごろしくやし
れこりよなるわぬい
のともうせなくもりわれと
れこもしのぬてきし
れくそいそごい
よそくられて衣なりわ
れりてげよぬる
花
月げのやどり袖し
てもみだやぬい
流が心ぐるり

後撰 十九
行サキテシラ又泪ノ多キモ
又月ノ三ニラツルニケリ

りぢぐるりれわよそし
ーくもらんか祿そ
いそぎぬ後のいそ心
めぬてわけがられの福
とむしつて
世よかりひるぬる
とこあふべ
よささぎい
アッの
れひの
もとそぎ
文集

水尾 原水湫田
瀝 日本記

君が行く三有テラ洞川
ニッハ袖ニフナ丸ヘラナル

とらりよるひぬへあぐり今んとせとよ
ぬへる福のうさもつとらもたがひあれ
とらそいれゆくれ

原 達玉ハ又トヨシハ世エハハカリシ逢モセテ泪ニツミシトカヤウ。友近ニミテテ

ふみおのらどあつりりんともりへつづれ
カマエラヤ

あんないものづれづつりゆるる。原の福もあや
九近ノ忌梅麗ソ思フ罪ニヤ

うづれでこまよよハあしぬもぞせいと
ラキハリハトシ勝ハ

ぞうそしぬてあひのくどい袖しりあつら
しあきくかん

あつら川らふみかんし消ぬへしか
水沫心身ヲ念テニリ

がれて後の淵ともまきこぞそなりくくみ
原

坤京ラニ冬秋ハキエト

虎の所墓 未詳 棠花
物語 岩瀨ト云ル 沖
廟ノアリ 夫唐ノ陵也
松嶺ノ真ノ名所也
定家
春ハ又トヨシハ山端
晩トテ月出シヨ

づれういぬへられぬいとあしげなり今
原

いとむいさあつてやとそせいれくら
あしづれどあつてうとそせい

そいゆああつてあつらけあぞあつら
藤ノ連夜 原宿トド

あつとあれがらあしあしぬもぞせいぬ
大方

あつとあつたの書よハ院のれもあつら
内ノ

あつとあつた山すうてあつらけあつら
あつたあつたまげ入道のうまよまうてあつら

あつとあつたあつらあつらあつら
水尾シララ

あつとあつたあつらあつらあつら
原

あつとあつたあつらあつらあつら
あつとあつたあつらあつらあつら

あつとあつたあつらあつらあつら
あつとあつたあつらあつらあつら

あつとあつたあつらあつらあつら
あつとあつたあつらあつらあつら

心あつらひどらりのれぬ流ししうらぐびの夜
まきりくんしあつらひうらぐびの夜
しひのじ友ノ三十四ノビヤリはなはなぬ友ノ叙前しあつらひ心
くしつせあましむまかりくれどいぬい
らよらうそとおほはらぐべわがれ心あも
中いまひとまらしみぞれまうらぬぐらふ
秘んどくして原刊いづくおひけぬはこよ
わくちゆるしあひあふあしそらとれ一娘密通
しよらん花がそらうらうゆるあけあは
まはならきよあつてし文のれせうぶよこと
あくがうまはひいよめしあしぬそしうら

あつらひ友も留まらうしうらぐびの夜
心原刊のこころよそあ友ノ五ノ八又トシりぬし友ぞ木原およ
ろげのことういあつらひはらぐてなるぬ
うらぐびのこころいもつせいぞやまはらぐさうら
い山原刊よまじりゆるるとれもつそやとあしぬ
よ友とみよゆしこころしぬしぞらうらあくこ
うらひぬれくさうらわ

あつらひ友のこころあつらひのこころいぬい
心まじりひごもよそらあつらひのこころいぬい
えぞ言らげくせぬ友ぬ友ハサレシモカトシトモカサレキニ

有ヤシキ分スツセ中ニ
アハレイツレノ目ニテナケヤシ

友ハサレシモカトシトモカサレキニ
アハレイツレノ目ニテナケヤシ

原 龍二

別一よりあつたことにはかゝる一と後
いぞよのめいさうにまゝなる^原かまらざる
世に^れいよよと又ふ念でもりもぐん
ひらきまゝにさうざわしては馬よそでか
^{カウニハレニシキコトセド}あつたことなれどさ一せのれあ
アコトはことなるあつてもうかゝる中よ
^{女院神櫻 養真ニアリ}のみにさの日はわのれにいづんをれ
うまうつり一本をのぞ^野れ^{五位住メウキ官モ}くうべい
ううりも福もつうを^{原ノカクセバ}れ^{エヌト}よこさけ
づれてはくことしてはてしなくか
むれともよまうらうらわりのもの

蔵人ハ中川伊守守が子
紀伊守ガ并也

みやうと^{鴨ト}れとえわいも^龍ねむい
られてありそか^飛ん^飛馬のららと
^飛ひ^飛つ^飛つて^飛夢^飛さ^飛し^飛あ^飛る^飛こと^飛と^飛ら^飛つ

り^原つもの^原げ^原が^原こと^原子^原を^原げ^原よ^原い^原が^原も
^{具時 隨身ノ内ニハ有連ハ花ヤカチリシモノトホス}か^原ん^原く^原わ^原け^原よ^原も^原か^原や^原う^原な^原わ^原い^原物^原と^原た

が^原そ^原し^原心^原が^原う^原く^原ま^原し^原れ^原馬^原う^原わ^原あ^原り^原あ^原て
ね^原や^原う^原ら^原の^原こ^原い^原と^原あ^原う^原い^原ぬ^原を^原れ^原よ^原ま^原う^原り
^{ハイトトゴシ}り^原ま^原う^原よ^原

^原づ^原い^原い^原せ^原い^原い^原ま^原ぞ^原わ^原ら^原う^原う^原ま^原う^原ぬ
ら^原と^原い^原て^原その^原津^原よ^原ま^原い^原せて^原その^原所^原さ^原後
お^原ぞ^原あ^原ら^原わ^原ら^原う^原く^原を^原あ^原り^原い^原そ^原後^原

せでうーとみまうら^原山よまうーでめそい
 ーまうー志れありまぬふめのみうくたやうー
 ぞーうー^原わらうらうー^{神位}せしせよなるぬ
 わらくぞいんくうくくらりやーいわび
 なるわらうらうらげめととらうくくやぬて
 しそめ^原しうらとあらとにえうけぬぬと
 祿むさむらうぞうのぬとやうぬくの
 れゆいづんもいげらうらうさうせよらんを
 ぶひうらういもくハ道のまよエうげくかて
 うけぬかどやとぶあけういよなもまが
 くれて^原森のあぶらうこぶく心せうーか

白樂夫
 古墳何世人不識姓重
 名化作路傍土命
 春草生

出んくくしうらうこむらーてあぶこいのよまわ
 ーれゆしうげやうらうらうら^原ん^月をへい
 ー^{身毛コダツ}し^原う^原ら^原わ
 ながうらうげやうらうら^原ん^月をへい
 かがしうらうもまがく^{カシミフハ}ぬわ^原わ^原け^原も
 福よるうのひてままよーしれせうらこま
 文^原源^原ま^原命^原故^原と^原ぬ^原う^原ら^原わ^原と^原そ^原ま^原う^原ら^原ぬ
 文^原の^原れ^原が^原の^原よ^原と^原そ^原文^原の^原か^原ん^原か^原と^原あ^原れ^原ゆ
 又まうらうゆらぞうらわめらあん^原あ^原ま^原く^原れ^原ら
 一よまうらうてらまのく^原られ^原ゆ^原ら^原う^原ら^原げ^原く
 えらや^原け^原い^原ー^原の^原く^原

春草の神位
 命故
 文の
 原

原
いけまうし春の朝れまとうん時うか

春ノ朝ト云ニ春朝ラシキ

つら山づのよして橋のりりせはつる枝よ

ほけ海つうくなんとれらんせふせれどおい

あふいれ心ちりともまあぶらしてあふまうれ

れぬいごぬしゆんとけいれれくまうし

あぶこよきしこりのよこくいませが

よとくしとのぬしを物くうあめれい

あとも義よみならうわらういあめ

らまのひのひ一昔のこあうくあめり

まふひのけけらうもよもぬひうてわ

れし人もせぐしぬいべうらうせとあ

古今
光十一年春モヨシバ
ケキラトク物思こモナ

ーらひりいりうとくやーし心ひとひよ
うらんとのやうぞえゆられぬい
あしやむやうゆるぞか
心がげよまうーやーららぬ又もらう
あんとぞこんうとあく心のうざれらう
ー

余
さきそとくらうい

西ノ身ノ後愛居ノテウニ比メヨメリ

急の如とーらうみよあ

えてん然し長う物流をうつ

らりあひてうらういあうひとあもみ

わうんこくがーくづとれぬらわう

時節印到本ノ銀宗アラハト引哥未劫ト

西ノ身ノ後愛居ノテウニ比メヨメリ

ほろほろで月^原はよりりふれせう〜ぞくえん
ごよごりやうのえし〜よおゆべしとあは
くれゆりよりりとの^原こおれんとおらん1日
二日〜ぬいよるきつろあうごよあわ〜し
ぶせいにちらゆるおととしてこそせま〜いれけ
てし〜の〜いよごいなるいおれおむせま
ささづにぬ〜うあ〜ひしてわごわそお
月^原げ〜い〜う〜う〜げよそのぬ〜うわ
く〜え〜るあせとわられあぶ〜う〜りあ
まのよ〜い〜ぬ〜えん〜う〜ら〜さ〜く〜あ
なれど^兼おぼ〜り〜う〜う〜が〜い〜び〜し〜し〜
よ〜あ〜し〜な〜し〜の〜い〜ん〜

^原いけりせのわれと^{カキテ}てぞ契つ^{ハト}いのら^{イノチモロトモ契リ}
とんよごりやうのぬし^{子クハチキ}のし^{ハト}こ
〜よあ〜し〜な〜し〜の〜い〜ん〜
^兼あ〜ぬいめらよか〜して^{イノチモロトモ契リ}
れと^{イノチモロトモ契リ}〜とごち〜ぬげ^兼〜とあ
ま〜んともい〜み^{イノチモロトモ契リ}を〜さ^兼げ^兼れ^兼ど^兼わけと
てか^{イノチモロトモ契リ}も〜し〜い^{イノチモロトモ契リ}か^{イノチモロトモ契リ}ら^{イノチモロトモ契リ}ご^{イノチモロトモ契リ}い^{イノチモロトモ契リ}よ^{イノチモロトモ契リ}う^{イノチモロトモ契リ}わ^{イノチモロトモ契リ}い^{イノチモロトモ契リ}と^{イノチモロトモ契リ}ご
ぬいぬ^兼な^兼と^兼〜西^兼げ^兼よ^兼つ^兼と^兼い^兼て^兼し^兼ひ^兼と
め^兼ご^兼り^兼み^兼ご^兼〜^兼い^兼ぬ^兼の^兼り^兼の^兼ぬ^兼日^兼か^兼ご^兼い
は^兼ら^兼れ^兼ど^兼い^兼れ^兼ご^兼〜人^兼を^兼ひ^兼て^兼ま^兼ご^兼い^兼さ^兼り^兼の^兼時
む^兼ら^兼や^兼う^兼ら^兼浦^兼よ^兼つ^兼と^兼い^兼ぬ^兼ら^兼ら^兼れ^兼ら

其日ニツキエフコト不審ト云リ七里ノヤリアルト云
候ヨリヤト云リ

大江殿ハ秋王取京時
備所也下向ハ邊坂
取京ハ大和ヲテ難渡
ニノ沛積アリテ伊勢
ヲ立テ七日大江殿
キ至ニ十日メ京ヘイリ
至フシ取京不吉ノ例
沛代ニ一度シバシカト

伊勢物語
トシク過行方ノ意ニキ
浦山シシモ止シ波ヲ十

御新賦ヲ撰ス
三千里外隨行本
十九年間仕轉蓬

はタフリ名兩ハヒホシ
トワ名舟ノカヒシツカ

古今在原行平
ワケメ同ノアヲ後ノ浦
モシホ名ツ、ワフトカメヨ

よそしつらひとまのひめしなから
がそしつらひとまのひめしなから
ひりつらひとまのひめしなから

かひりつらひ

原 九連入ニ原年十トラ云ニヤ
かひりつらひとまのひめしなから

これぬあそとやせんかづいよ
けえんとみおてうやましくも
だんどぬつらぬせのあらと
あつしくさるれうかとの
くどろりつらひとまのひめしな
山しつらひとまのひめしな

原 三ノハ七里ハ
原年ハ七里ハ

かのつらひとまのひめしな

原 ちりつらひとまのひめしな

がひりつらひとまのひめしな

かんおしとまのひめしな

をかつらひとまのひめしな

かひりつらひとまのひめしな

あつら山の中らつらひとまのひめしな

よみつらひとまのひめしな

みどがうつらひとまのひめしな

あつら山の中らつらひとまのひめしな

あつら山の中らつらひとまのひめしな

あつら山の中らつらひとまのひめしな

ツニナクニ人取前ノ月ヲシニヤトイヘシハ
カヒラメカサバトマリー

等しいげちり申領の前申庄の近所代官トモスシ
てさういふ家司のいふやうな事とておぼせよこがやし
後ならぬ時のまよひとみおかりそ志願を
水やうやうなうらなまどもなごころいよ
いとこづもあはれ心らうつなごもめ
靴とてあう家来ことの人なれど情おびて心を
うまうらうら取接取もしく人さういふ
どしとらうぐらうぐおとしのあはれと
しあけれどうめまの心らしとていひれ
ぶしくぞ弁存とてまぐさまといと等

君が元泪ヲナクシ此リノ
ミギハニナリテ思フニナリ

等しいはやくとらうまわやくもあ
はよりわけて糸のいとと等やあ
意一とく人あり女兼の等一とわ
あまのいともわつまのうよ心とくま
に流しなごころとてあう一こいひ
あし流束へ人出ー一そ流二糸院兼なり
かやと入道のあというさしやり流し
これのうら文よ兼茶兼の哥ハセ又心兼ヤ兼心兼ハナリ
下ニハハナト云ヒモアリ
仁清の誓兼れ兼こ兼ま兼や兼し兼い兼ら兼ん兼は兼テ
の浦ぐ志兼は兼り兼に兼い兼と兼ゆ兼ぬ兼な兼う兼も兼も兼
こ兼う兼こ兼い兼り兼う兼れ兼も兼こ兼ら兼ー兼み兼ぎ兼い兼ま兼り兼こ兼

白波はまのさかろをユリス
一ノ波はこゆるハカラントフ
ヲモフ

アそてかん^取内^取のういのれもとよ例の中細
まの^{官せ}志のわくうーとぬ^取ううそ中ううよ
ゆれぐと^{文ノ刊}うーこれあふ^取ゆ^取ゆ^取ゆ^取
よつけて^七

ユリとて^取白待^取高^取ユカキ^取ハツカト^取

い^取わ^取ぢ^取ぬ^取の^取浦^取れ^取う^取め^取し^取ゆ^取き^取と^取さ^取
やく^取あ^取ま^取の^取い^取ふ^取め^取し^取ん^取ぬ^取ぐ^取う^取さ^取け^取
一^取れ^取と^取れ^取し^取ゆ^取い^取ゆ^取り^取べ^取一^取ま^取の^取も^取も^取寧^取
相^取の^取あ^取の^取と^取う^取も^取れ^取う^取ま^取つ^取づ^取い^取こ^取も^取な^取ど^取し
う^取い^取れ^取う^取も^取と^取京^取よ^取ハ^取び^取れ^取あ^取こ^取取^取じ^取よ^取み^取れ^取
つ^取れ^取心^取も^取れ^取ぬ^取人^取ご^取の^取こ^取取^取ゆ^取り^取二^取條^取院^取
の^取志^取し^取の^取ま^取く^取よ^取あ^取こ^取も^取ゆ^取り^取れ^取し^取ぞ^取れ^取

い^取せ^取ぬ^取ぬ^取の^取さ^取う^取こ^取り^取れ^取む^取あ^取ぬ^取人^取ご^取
う^取一^取人^取侘^取つ^取心^取が^取え^取う^取ら^取わ^取り^取ぬ^取で^取あ^取り^取
流^取一^取れ^取で^取う^取ど^取う^取し^取ひ^取う^取い^取あ^取り^取一^取ぬ^取し^取れ^取と^取
ぬ^取ぐ^取い^取そ^取て^取ぬ^取ら^取れ^取ぞ^取め^取に^取わ^取ひ^取な^取ど^取よ^取つ^取け^取
て^取し^取う^取ま^取も^取と^取せ^取よ^取な^取り^取く^取な^取わ^取さ^取ん^取人^取め^取や^取
よ^取の^取こ^取さ^取う^取一^取れ^取む^取う^取け^取し^取ゆ^取き^取う^取て^取か^取納^取え^取ハ
傍^取於^取よ^取い^取の^取れ^取と^取あ^取ど^取あ^取の^取二^取つ^取し^取よ^取れ^取ぞ^取
か^取う^取あ^取ど^取せ^取う^取と^取ぬ^取う^取け^取し^取う^取一^取な^取げ^取く
れ^取心^取と^取ま^取げ^取わ^取ぬ^取し^取が^取い^取あ^取む^取と^取め^取と^取よ^取
あ^取り^取の^取よ^取い^取い^取さ^取ぬ^取よ^取う^取ど^取う^取ら^取う^取さ^取い^取さ^取し^取よ^取
い^取か^取う^取一^取流^取い^取ひ^取め^取い^取の^取井^取ぬ^取む^取ど^取て^取う^取ど^取て

ワキモガキテハヨリツキ
ハシラサモムツミナチカリ
ト思エハ

手り流キ又し世官ノ故ハのれがとーさーぬささぬうり
うらりせうしうきよ七三原ノ哥ニぬ流との流
ーあしげのげよかよひ流うしひ
かし出りのひーーりあーまうさ
らかをとみ流しひのこらざり
てゆとこーさうーせよカイルルかどこわら
よしひめくよあうまうてなれじつびい
ーしらこよせてあつあつあしサキ
てなうー流れをイニシわられてさー
くさあし流つう一向世ナキ人ナラバひいラモア
あくうらんカク及ニテうくイニシてイニシ流
あくうらんカク及ニテうくイニシてイニシ流

伊勢
別アツアミシト思ラ
限ア世ノ年トモナシ

よそしやうくわかれがあしあひやせんま
流しらんれどイニシつまどとぶらあう別
よもあぬと受せよれきせぞあん友入るの
まーあしままめれよーりさうあびく
うぬしううり密通ニテせめイニシと覚せよそ
うあうくくあばらんイニシ比いさ地のま
えあめれくうーさうーなまけあうら
ーさうせむせれよつけて人のこらあうと
もそとのひい人よさうーあびつて表し
あうらんイニシせうくくさう
流ーとうむあよ言せの人イニシがれど

カリソク

密書

ひそくもいはいのいびつらことなりてやとね

着原のいせ人三つ

ふむらちの人れにあしひけしあかづらあり

し心のいくこよまよせどけいあやきく

もそらうしはらぞうしと後よあしこし

いぞあしとぞうらんかうもせうしこまのやう

うそいはいと

あかすしととやくしをねびようやう

やうもあげこいぞつじんのあわれはよ

いよよいあしよあししあがれ

ゆるけりよいこぞがらうさうりから

もくえあんとむらうさうりもて中納まの

あめなるよるあしけくさぬあとい

くつひわあしとあししあがれ

うらなげれぬあまのいあし

あやうらうしとあしとあしとあし

あて

あ人のあしなく袖よあみあな

だつらあれあしあしのあし

いよいよあしあしあしあしあし

あしあしあしあしあしあしあし

あしあしあしあしあしあしあし

あしあしあしあしあしあしあし

あしあしあしあしあしあしあし

あしあしあしあしあしあしあし

あしあしあしあしあしあしあし

あしあしあしあしあしあしあし

あしあしあしあしあしあしあし

あしあしあしあしあしあしあし

あしあしあしあしあしあしあし

あしあしあしあしあしあしあし

あしあしあしあしあしあしあし

あしあしあしあしあしあしあし

あしあしあしあしあしあしあし

あしあしあしあしあしあしあし

あしあしあしあしあしあしあし

あしあしあしあしあしあしあし

あしあしあしあしあしあしあし

あしあしあしあしあしあしあし

あしあしあしあしあしあしあし

人親心公衛ニアラキキ
子シ道ニ迷ヒタルナキ

くわいりめしうげよきしてくごくごせられ
ぬぐれおひてやしうまうと見えまのい
ちんーなまわくほせよつこほごまう
しあしんとおほせじやそれれはうじも
わけられとこうひておしと大とのわがま
のいとなどあううしとあーれと
のづうわびとてんめりきくごせぬ
むらろやうくあーれと堂ーなりまらば
申しこのるれまどしれぬとぬやゆん
はこぬこさぐーかりー福のまがふれよぬ
そそぐうれ伊拂の文一しれはひらり

人ノ親心ハヤミノ事トハ相違ナキ業ニハトコ玉(正ト)

ニコトヤ

熊

山

ワ

ぐりれらわしあうくへぐひまらかりあう
らぬこごもつさぬアうその景業だひ
あどいんうりともあまあううさわあうみ
えうわれうつとハらぬ(られぬれせまめさう
けぬらうし明ぬ衆の心まどひうとつんさ
とも年ぬこつぞぬらうとつひやうわ
うせらよもしはじやういおれしこそまのわ
せんともしとらうりうぐれ
ういあういせぬのあまよらひわがが
らてみせぬのういそよらげよらぬ入み
ぐりせのわらぬれいよらうらうい

夜蓋ハハ明シハサマシハ明又夜ウウノ三トトト

山

あまがつじなげきの中よまがふれてい
けりぞとぬのうらむとふがらん（紅毛草ハイソックス）
しめいれいもゆいぬとれまかせぬらりし物
れちどぞありらるるもよづこいももおぼつ
うなうしぞあしうらみぬ心らりる里もくか
とぞうらりまよ（原心）しあつちぬうら心こみ
ぬよあしきしちなれぬらりしつづれも
らみあひつなうらうしし物さひのまよ
しぐさ（源思草）なるあり

あれま（兼教）うら新のまのぶとながみつ志なく
も露のうらぬれとありとげ（原心）よむらうよ

兼教ノ文ラ
ヤリモシニ
コニニナリ

まかのうらうらしなるうらぬれもあしき
とぞうやうてとぬよはれいぢりあぢくづれて
なとてうらぬれ京のけいれもとよあかせ
れらうてらるるあぐのた（シヤウ）の地なと
もよかせてれうらうらつづさうのぬえ
と人のぬえ（出仕ラト）人よらうぞうぞうら
れと（有木心）とあしうらぬれもせらりよ
ま（兼）もも（兼）うらにもせうらぬれもうら
あり（兼）女（兼）み（兼）や（兼）も（兼）あ（兼）し（兼）せ（兼）ぞ（兼）あ（兼）は（兼）や（兼）け（兼）ぎ（兼）ぬ（兼）
の（兼）ち（兼）や（兼）づ（兼）る（兼）と（兼）ぞ（兼）う（兼）ら（兼）ぬ（兼）れ（兼）も（兼）う（兼）ら（兼）
し（兼）ゆ（兼）い（兼）と（兼）あ（兼）し（兼）き（兼）と（兼）も（兼）ぞ（兼）う（兼）ら（兼）ぬ（兼）れ（兼）も（兼）う（兼）ら（兼）
（兼）の（兼）ち（兼）や（兼）づ（兼）る（兼）と（兼）ぞ（兼）う（兼）ら（兼）ぬ（兼）れ（兼）も（兼）う（兼）ら（兼）
（兼）の（兼）ち（兼）や（兼）づ（兼）る（兼）と（兼）ぞ（兼）う（兼）ら（兼）ぬ（兼）れ（兼）も（兼）う（兼）ら（兼）

兼教ノ文ラ
ヤリモシニ
コニニナリ

此流て糸流へうよつけても程心よあこに
ことのもで表よきて流るる七月よつてまい
る流へうどふりいれひの名おなれん人のそ
るりもあつらうれど例のうよつてさう
るを流てよろげようううけい表よ整
せ流へいぬらうらういとなまめうらうま
らうれど心おのこおほらう心のうらそ
るうけうういれあそびのれわでよそのれ
あういそいとうううぐーうれうよまうてさ
あういおほらんうよとよまひうあうう
うらあうれとの流へせて院のそりの流

拾遺
憲王後ハ何セニイをニシ
タメコソ人ハミニクホシケレ

えせう心とこぐけうれれうらん
とて同ぐませ流へえ移人ト流へせ
とあつらうつけせもあうらううらうれ
とふいあうまうよえうせよあん物とあ
ううよあしぬうらうらんよんを覚うら
らううい程の別よふいれんを移す
うれいけうらうよとにげよよぬくのい
ううんとととらうううれあせ物とぬ
とよ表とあうての流へらうよつては
うくとこぼれあしやうけよあつ
まうとの流へせううてううられあ

忠見
秋風ノ関ヲテ元老ノ子トシテ
声ヲキコラセバ又ハ南波
能直
殘ノ袂涼シクナリニテ
愛吹ミル波テ南風
此哥ドモヨクコト相カ
トテノ引ノ中物チ新
旅人ノ袂ニシキトモ
テ此哥トモ思ヒ出ストモ
中物チ新ハ續キ事ニ在

独渡ノ床ニ冬ニ此洞ニハ
石ノ枕モウキ又(ベ)ナリ
椿
関ノ水ニカサヤ白坂ノ
枕ノウキテトニカレラ

波立ハ沖ノ玉モヨリヌニ
号方ヨリ凡モカナン

とてさうさうぐうとくも 若シ未ノ神橋ニニト 院れのねてさう

揺よろど 原 ^{花衣近ヤ} ^{聖德太子トハ八宮ノ北橋ナリトモエリ} 花衣 ぬしと 原 こそくられむ心ぢる

うな 原 じ 花衣 世と心ぬかよまつりごりなり 原 のま

く 原 のあうよ 花衣 わく 原 され 原 心の 原 け 原 前 原 なる 原 こ

福 原 ま 原 せ 原 い 原 と 原 め 原 ー 原 と 原 夢 原 ー 原 ー 原 こと 原 も 原 夢 原 ー 原 ー

内 原 へ 原 よ 原 い 原 と 原 心 原 け 原 ー 原 の 原 秋 原 風 原 ー 原 悔 原 と 原 せ 原 こ

一 原 遠 原 々 原 れ 原 ぞ 原 行 原 平 原 の 原 中 原 納 原 せ 原 ば 原 せ 原 こ 原 吹 原 こ 原 め

糸 原 と 原 つ 原 ひ 原 り 原 ん 原 う 原 め 原 こ 原 ー 原 ー 原 ー 原 け 原 よ 原 ー 原 ー

う 原 ー 原 ち 原 ち 原 又 原 ー 原 ー 原 衣 原 衣 原 ー 原 ー 原 ぬ 原 ー 原 ー 原 水 原 水 原 の 原 秋

な 原 り 原 け 原 ー 原 前 原 ー 原 い 原 と 原 人 原 ぢ 原 ー 原 ー 原 な 原 よ 原 て 原 ー 原 ー 原 や 原 せ

こ 原 わ 原 ー 原 け 原 ー 原 よ 原 ひ 原 ー 原 ー 原 り 原 め 原 だ 原 ー 原 ー 原 ま 原 ー 原 ー 原 て 原 枕 原 と 原 せ 原 ば

ぞ 原 ー 原 ー 原 ー 原 の 原 け 原 ー 原 ー 原 ー 原 と 原 ー 原 ー 原 ぬ 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー

も 原 と 原 ー 原 ー 原 ー 原 心 原 け 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 同 原 け 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー

ま 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー

う 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー

ゆ 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー

あ 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー

い 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー

い 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー

こ 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー

お 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー

あ 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー 原 ー

枕

けろやん炭とわねてくまじひわら
 とおぼせよとくそとくこつらにいふ後
 と心かちとつやんとおぼせひらひらた
 くれとつそやれとつらりの流ひまうさ
 ーはれぐらうまのーはくは紙とい
 ぶつてま習とー流ひらうーまは流ら
 ーれわやあどとーぬぐの念どとつれ
 せふい流ら尿風のわてうしむとつれ
 こく足不わりののうわまー海山の
 けわさぬとつらうーまやまーとあまら
 くていげよとよぐぬそめつとまわに
 景氣

神ノテイト日記ニシテ

若菜東ニ舞馬山ニテ

なくくさわつら流らりけはめよよせあり
 枝エガけノのノりノいノとノやノてノ流ノらノ念ノとノ流ノ
常利共ニ給師也坐喜南次
何トアテラント
 ーまうつとせどやと心もとなづちありあり
 ーうやぞとつらういれわりのぬよせの物とひ
 とれてら都ニテハヤカクは又人くノなノれノ流ノらノまノうノつノとノうノらノまノ
 ーとつと四めくどわぞ所ときやうひら前
 裁の念多し嘆みづれありらうこく言よ海
 見やうく廊よ上原流てくぞし流れぬの
 けとつとつらうのー前つらうまうてつ世の
 りのともくし流しぞとらういわ小袖れなま
 うわらとんイレヌキあまどまうてこコキセま濃わうノらノ
 パラララ

色三才の十六夜月二湖
ナカキ世のりともはく初五

よそはれがうさき後らうらわく存のいとも

やうまうしおろろよこひの十又兼つらう

とぞう出て敷どのれわそび恋しく前ご

なまは流らんうとそひやり流よつけても存

のふかのしまもられ流二ふ里お古人心と

そど流つる餅の聞ともあられぞ入道の交

めさうりやあぶつらとの流んぞ一程いんる

かく恋しく切りくれとそ出流よよと

かうれ流兼少けゆぬとまゆれぞれりぬ

いぞ

原
みう程ぞちぢうらむぐまじめぐるあもん

樂天
三五夜中新月也
二千里外故人心

管相女
去年今夜侍清涼
秋憶詩篇独断腸
思賜御衣今在此
捧持毎日拜餘香

月のみやこいふ流々なれどもそ^原の兼^原人のい

とあつうう昔也流流一は海^原の院よ

にあり流アうと恋しくそひ出まこうめて

思賜^原の御衣^原今うまはり^原とそどつら

流ぬれぞ^原いま^原こと^原に^原あ^原か^原ぞ^原く^原い^原ん^原よ

とこ^原流^原あり

原
ううとのいひん^原あ^原し^原お^原し^原ほ^原で^原ひ^原

みみごよしもわす油^原肌^原そのは木^原威^原ハ^原の

がりくうぶうやう^原い^原ひ^原う^原い^原し^原を^原あ^原が^原ら^原よ

て前せうわられむ水のい^原毎^原その^原が^原浦

はるひよせうえう^原つ^原く^原ら^原よ^原お^原ら^原あ

ソシヨフノ兼
こそ神楽ミテ

ウキコトハヒトサレトモ左右ニテスルコ

た近ト又御衣ヲ香トハ
た右トニ

昔^原が^原文^原
ツクヨリ一任四テ
命^原本^原字^原府
ヨリ^原ク^原カ^原チ^原ラ
木^原威^原ハ^原ハ^原ル^原ヤ

大威ト帥ト兼官ス
ハナキ親王ノ帥任シ
五下キ大威ト帥トモ
申シ帥ノ厨時ヲ裁
ナトリラコナテ故ニ云

もろりさわらわれど心とまうりよ木ぬく
てかえせとさうけどあひなうりよいさうわ
ういせあうらみあうらんらう
心げさうせふ花散里卷ニツクシノ五節ト主ツキて止せらの志い流か
ていよこせぐらもはかーまうよえんめ急ぞ
よつさてしうりよやめゆりよ前のまぬ人の
れかど物の福れがそくさうわあつあ心あう
ぞうわ路かうよらり大威れれせうそこあしう
いしんらうあり福うわぬうりのがりていまう
う早ツクシヨリらうやひてぬのれ物流もとそぬ
へはれれぬの介よ早してあしうらうにや

どりよまうり色ゆう大威けうか
もゆれあひうそゆ人ぞうんここれれ
まうぞい早いいてあましゆれどあせ早ぬ
ぶのんぞうりゆうとごもゆてえ早ぬ
いとく早うよまうゆんあどあしう
こ大威りけんぬうそまうわらう早ぬの早人
よなりーるりこぬいー人なれぬ早物か
いトニリタキととんども又うんどのあれどさうさ
ひひてきぬーしうらとまの早ぬとあれ
てのらむーうーあー人どあひうらこ
とさうぶのこなうらう早わぶとさ

古今
イテ歌ラ人十トガメソ大船
ユタクユタク思フヨロ

うらやめしうらやめしこのかたふれぬなりとも
よなんぐしなくくくくしておしはるはるい
うはるうらやめしうらやめし人の人の人
かくくくくくくくくくくくくくくくくくく
ておしうらやめし

五節

君の言よいごととやいふはなすな

いふふ心まきりやせささぐくくくくく

かたがめたとやういふはなすなみはる

げうげう

原

心ありていくてのたかひうらやめし

るしうらやめしのうらやめしうらやめし

古今
思キヤニナリ別ラトロハ
エニナハキヤナリト

口詩ハ
驛長莫聲時更改
一深一浅是春秋
馬ヤ長ハモモコラタモ
カシ文ハ現五節トコ
ノハ口詩ト

カト云

うらやめしとわりしやのかさよ

菅相

うらやめしとわりしやのかさよ

みごとともしやうておしうらやめし

おけりやうらやめしうらやめし

いおびてかたはれとんやうらやめし

余ぬのまはうらやめしうらやめし

あまのれいととやうらやめし

とうくくくくくくくくくくくく

うらやめしうらやめしうらやめし

うらやめしうらやめしうらやめし

三位

菅相 筑紫(左) 延時 明石(右) 長 馳走ラ
シタリケシバロズカラ詩ヲ詠メツケハサルハト
口詩ハ口詩ト云フ
ツムセ

狂言トコ
イロハシ
ラズト
フ

名月、菅丞相
奠後挂家半且圓
三千世身一周天
天廻玄筌雲停霧
唯是西行不尤也

後とる人し流前よつけていよるげのこ
と後うしりみの人こぬとどぐのらんとしみ
流いあしぬ心ゆりよ上高ノ内身ヲクリテク持玉ハ御身ニ累クアタリタルトりしげか
うみあしきえさる燈のいとらく時ぐま
くら紙えれやあられきかやくまんとそ
まふかしくさうしきうせうろの山は榮と
ふちのあそがうりりりあづらうま
山原らぬいほりよ松河げうきどくしこと
いこ原人トキコトかんさう野人そよありそ雪やうられ
しり比せそのうきことよせうくまぬ
流てこんをりせきひめてし流よう

うしこせ惟老木楠よこ笛吹てわそびぬ心と
うそ長介らるるまといさぬうよとゆの
きどしいやそ同とのごひわくう昔胡の
ふよ流しうらん女と手記さうやうてまうて
いかならんせよ木ねさやゆらんサなどよこ
やよとあらやうらんことまどそあしあ
ぬものやよゆりくて卯前一声霜後夢後宮万月形霜の後れまとは
し流月ハ月前腸ヨリサレケリとあうりてふかき旅れか
うしあハあくさうてらほうしゆのらんよ兼
かううてれしむわうりごこの月年せうてうあり
よ年れ西よけやうりと独づら流て

昭君題
解題

いとしカタキヨキくカワセキなりととりてみやげはよ
おー泣くカよカままぐれて時めくカ泣くと
なびかカりりカ福よカのカひカおカりカてカう
せカ泣くカうカどカいカまカめカとカまカわカ泣カくカいカとカぞ
うカいカせカいカとカくカれカふカまカいカぬカらカわ
とカめカれカうカ田カ舎カぐカらカうカとカおカがカいカせカてカどカ
かカどカつカひカわカうカちカびカいカせカちカせカぐカれカらカうカらカ
なカうカいカどカちカらカうカうカあカせカしカうカよカ心カだカせカち
ふカさカぬカまカどカぞカげカよカやカんカどカなカらカいカくカよカあカまカ
あカまカいカどカらカりカうカみカのカあカらカいカぬカとカらカあカいカこカも
のカよカらカうカとカいカうカいカくカもカらカれカとカなカあカれカどカ

天正(相堂)
五ノハ

よカしカあカいカどカいカ福カよカつカけカいカせカいカなカいカよカみ
どカ命カなカぶカくカてカあカいカくカどカよカとカくカれカあカいカは
まカよカしカなカらカうカんカ海カめカれカこカよカしカ入カりカんカまカどカぞ
らカうカらカいカぬカあカせカくカらカうカづカさカてカ命カよカやカい
どカびカ信カ名カよカまカいカでカせカらカりカ神カのカいカよカいカ
とカぞカくカれカどカいカのカらカうカらカいカぬカよカいカ命カのカいカよカいカ
てカ目カなカぶカくカけカれカぐカらカりカよカうカんカわカらカあカの
橋カのカよカあカせカちカせカらカれカらカうカいカうカらカらカ
うカらカよカらカげカめカとカあカいカぬカれカてカうカらカなカ
まカらカあカりカくカあカいカらカいカ二カ年カのカ日カあカらカいカ
うカいカ命カとカわカれカいカしカ心カがカらカうカらカいカくカいカ

百教大宮人ハイトニシヤ
標カガニテケクモクシツ

つれありさ故なほどいと恋しく南殿の標ハ
盛よなるわぬん一弁の念れえん相堂院のハ
くーいーうらの兼人れいとまうめらよなまめい
てわがれくはらくとまぞど流ーもふいで
あし流。

原いけとなく大まぐめ恋ーささーさくら
ぶいあーくやまきうよりーつれづつらよ
木殿の三位中ぬい今も宰相よりうそく
のやとらげれど世のあはれあひてあ
ーのくどせ中いよと後よありさくく物
の好どよ恋ーくまーりたむとあこて

後撰
此は宇平忠信トツテ
ワセモノハ因ナリテリ

白成文集
五原三間新亭堂
石路松柱竹編塙

あわてれいーあーらとーいーいせんとき
ぬて候よまうで流うらうらうわめづー
くらけーいーいし因ハトツシとつ洞ぞこぬれくう及ハ
まのぬくきぬいんさく白成文集ノラツニ用ニ云フうオロビラさわ
一所のさぬえようこーんやあうよ作る
やが垣志さーしてぬめらーねのらーら
とらそかろ物ーうづーよあー山原ぐいぬ
ふそゆ紅ノウスキ父のふがらなりよあよにび
のモセ也あぎぬアツニうらやつれてしモセ也
いなるびりそなりーぬきーもカチシラうみ
よ不なまれてさうもらうらうわつひぬら

でうどもうりそあよまかしてあまのうらもあ
らもよみつれうほこまぐろくねんぞうど
彈書 一六五三のぐろどわやわびよまかして後
ぞのぐろこがひれはあ流りくとみしうり
物まっつらうどこまうらよつけけうあ
うそまのうらあまよどまあわしそつうい
又魚下し 又海津モノ
いものそまのうらあまよどまあわしそつうい
よううらうらあまよどまあわしそつうい
あげなうらあまよどまあわしそつうい
くさしづろし心のゆく急しかあまよどまあ
うらうらあまよどまあわしそつうい

催馬ホ
アスカイニヤトリハスニシヨケ
カケモヨシニセヒセサムシ
ニシクサモヨシ

せ流と^ヤい^{ヨロコブ}らう^ハひ^ハあ^ハうと^ハら^ハう^ハれ^ハ馬^ハど^ハら^ハう
う^ハら^ハう^ハみ^ハや^ハあ^ハま^ハよ^ハど^ハま^ハあ^ハわ^ハし^ハそ^ハつ^ハう^ハい
福^ハど^ハも^ハう^ハわ^ハお^ハて^ハふ^ハあ^ハど^ハあ^ハぐ^ハら^ハう^ハみ^ハ流^ハあ
そ^ハう^ハあ^ハそ^ハう^ハら^ハう^ハひ^ハて^ハな^ハら^ハう^ハめ^ハ流^ハ物^ハ流^ハか
ま^ハし^ハわ^ハひ^ハこ^ハわ^ハら^ハう^ハあ^ハま^ハよ^ハど^ハま^ハあ^ハわ^ハし^ハ
で^ハ物^ハ一^ハ流^ハう^ハあ^ハま^ハよ^ハど^ハま^ハあ^ハわ^ハし^ハそ^ハつ^ハう^ハい
け^ハて^ハあ^ハま^ハよ^ハど^ハま^ハあ^ハわ^ハし^ハそ^ハつ^ハう^ハい
く^ハそ^ハう^ハら^ハう^ハあ^ハま^ハよ^ハど^ハま^ハあ^ハわ^ハし^ハそ^ハつ^ハう^ハい
あ^ハま^ハよ^ハど^ハま^ハあ^ハわ^ハし^ハそ^ハつ^ハう^ハい
ま^ハあ^ハし^ハと^ハら^ハう^ハあ^ハま^ハよ^ハど^ハま^ハあ^ハわ^ハし^ハそ^ハつ^ハう^ハい

樂天

一別五年方見西
詔到天明竟不眠
生涯共寄蒼波上
鄉國俱拋白日邊
泫然淚落都似雪
回也零落半似水
醉悲酒罷春盤裡
吟苦支離曉燭前
樂天江外尤近又表夜
元微之別十
作此詩

なつわぬうらみけまつてあひのうかしの
洞ろく去のさうづこのうらとりあな
そど流れしもの人も皆泪となぐれどもあが
づもろくがらわれあゝいづぢかりおが
けの元よ居つれてもろくあやどめま
やまーさいさうら^{カラ推メ}の宰相さうまはち
いぞんやらせで

あうなりくよふれこ^{常世}よはらわれな
めがよなや海どらんらん^{京ヨリ}の^{玉生}れいぞ
ろーあうさぬく^原あやどめま^原くさうけ

我が心三子^{三子}星馬^{星馬}心^心アラハ
君の心^君は^はコノ^{コノ}イナ^{イナ}ケ
越鳥^{越鳥}茶^茶南^南枝^枝胡^胡馬^馬嘶^嘶北^北風

あういれとろくよとせ^原ろくごは^原あり^原流^原ゆ^原
こーあは^原れぬ^原づ^原れ^原ど^原風^原よ^原あ^原わ^原て^原い^原ぞ^原え
ぬ^原づ^原れ^原な^原あ^原と^原し^原ぬ^原せ^原よ^原ら^原わ^原ご^原い^原げ^原ろ^原ろ^原流^原
馬^{形見}の^{形見}さ^{形見}ぬ^{形見}ら^{形見}ら^{形見}み^{形見}よ^{形見}あ^{形見}び^{形見}流^{形見}へ^{形見}と^{形見}そ^{形見}い^{形見}づ^{形見}こ^{形見}
あ^原え^原の^原な^原あ^原り^原ろ^原ろ^原あ^原い^原ど^原む^原ろ^原り^原人^原こ^原ご^原あ^原つ^原べ^原こ^原
こ^原と^原い^原く^原こ^原し^原よ^原え^原ー^原ぬ^原し^原ぞ^原日^原や^原ろ^原く^原さ^原ー^原
あ^原ぢ^原り^原て^原心^原あ^原も^原こ^原ー^原れ^原ぞ^原ろ^原ろ^原こ^原れ^原こ^原え
つ^原と^原ぬ^原と^原み^原と^原ろ^原ろ^原ぬ^原ろ^原こ^原い^原と^原申^原ろ^原ろ^原
い^原し^原も^原さ^原ぬ^原い^原ろ^原ん^原ぬ^原も^原ん^原と^原そ^原ろ^原ん^原さ^原わ^原し^原
く^原て^原や^原と^原し^原ぬ^原よ^原あ^原や^原ど^原
あ^原ま^原い^原く^原と^原び^原ふ^原い^原げ^原し^原え^原よ^原み^原よ^原我

原 不天子近習人七
原 越鳥茶南枝胡馬嘶北風

思フトニイトシモ人ニムツシキ
シカナフコトゾミチバコシキ

セシ領二十トハハトシ
三、坂東エテダノモシセ氏ハ
カウハカク

かぐろくぬわろく人いじうれうに人ぞよ
音律類ハ然ニ都ハホリミハ
又人ハ

しうぐさうせよまきしまのどらみとさうけ

くれむいけうかめさうひとまうこいんとらん

あひゆるぬるどのの秋宰相

カ(タコロシキ)田舎ヲチナリ 榮中
カ(タコロシキ)田舎ヲチナリ

れむさうさうべー友とまつてうけけくかれ

あしゆていしーもしくやさうさぬらん

かりあひくさうさうやうもしあぞうり

あわら名おいとさうかううなぶあうしー

やうひのけいしーらよいでいしーらこのひけい

昔ハ三月申己日ノ来リ次第ハハ之ヲシテ今ハ三日ニ定ム

あんく覚せともあう人ハみせぎしーあざきと

なぬさうきく人のまゆれをぬづしわし

くておぬしととらせよ せん せん せん せん せん
軟障 幕ヤウモノニ松下ノ繪ニキリ登ゾ引

引ちぐさうてこのあようひりう陰陽師也
道満法師
君住播磨
此時代名人
繪ノ人

しそくさうせぬみよことくさうじん

のせてなぶそとみぬよしもあうられて

エらざわいーあは海のもうよなぶれきそ

あしういよやいぬさうかういそとあぬ(海)

あぬさうかういよいさうさうさうさうさう

海のもてさうさうさうさうさうさうさう

あとうさうさうさうさうさうさうさう

うなれて

^原やどよろげ神も毎こころをんか ^{謀板のハナキトシ}

そのなれとあけれむとの流儀よ見ゆて

元しつうい言ぬれもくもあそてぞーあさハ

まこつらひら ^{袖ヲ笠ニシテは}ぬとあそきそとあした

こーなれぞ啓之り流人もあつよ ^はなせこ

よあんどさう心もなつこよろげ吹ら

又つうい風うい波やこらあーこらあそ

人の何いそ元うり海めあそい ^{白キツム}あそぬ

こわさん ^ゆり ^はふりこらそ ^神うり ^ひ

あーあらしこらあそらそらこらそら ^た ^ざ ^あ

雪
海成集
年コトニ冬アモトシノホナラ
コハメツクシキフス一雪キ

まそ ^そ ^ろ ^め ^い ^え ^ん ^ぞ ^し ^わ ^ら ^う ^こ ^凡 ^な ^ど ^い ^あ ^け

ど ^ろ ^ろ ^ろ ^ろ ^ろ ^ろ ^ろ ^ろ ^ろ ^ろ ^ろ ^ろ ^ろ ^ろ ^ろ ^ろ ^ろ ^ろ ^ろ

ら ^ら ^ら ^ら ^ら ^ら ^ら ^ら ^ら ^ら ^ら ^ら ^ら ^ら ^ら ^ら ^ら ^ら ^ら ^ら

あ ^め ^れ ^あ ^し ^あ ^ろ ^ろ ^あ ^と ^と ^う ^ぬ ^く ^と ^と ^あ ^い

け ^い ^て ^せ ^こ ^つ ^い ^わ ^ら ^い ^や ^と ^心 ^が ^ち ^と ^さ

ま ^ど ^い ^ま ^よ ^あ ^ら ^い ^ま ^や ^は ^強 ^う ^ら ^そ ^ぞ ^お

こ ^も ^言 ^ぬ ^れ ^ぞ ^神 ^そ ^う ^か ^ち ^や ^そ ^凡 ^ぞ

よ ^う ^し ^や ^く ^お ^ほ ^い ^そ ^つ ^う ^就 ^め ^ら ^ら ^ら ^ら ^ら

べ ^い ^今 ^ま ^あ ^ろ ^う ^く ^と ^あ ^を ^ど ^波 ^は ^い ^れ ^て

入 ^ぬ ^ぐ ^り ^り ^り ^り ^り ^り ^り ^り ^り ^り ^り ^り ^り ^り ^り ^り ^り

い ^ざ ^人 ^そ ^こ ^な ^ら ^い ^ら ^い ^ら ^い ^ら ^い ^ら ^い ^ら ^い ^ら ^い ^ら

い ^ざ ^人 ^そ ^こ ^な ^ら ^い ^ら ^い ^ら ^い ^ら ^い ^ら ^い ^ら ^い ^ら ^い ^ら ^い ^ら

本件
里子
故文
ニ
アリ

といふまじくしてぞとひひあがり曉びては打
 やとしうりあもいさう福の久れむその
フミキナルモノキニテ
 海ともしぬ人かそおど文ふあやあや
 よハまづうぬぬとそたどりあうくしこら
原
 よおどらあそそさハ海の中れ龍玉のてい
原
 う物めぞらあやみつれううあうらとふ
原
 ぼそよいとぬじらうういそまわい
 ぐくおがーがうあぬ

同成王時周古直甥管叔

葵叔ト云語佐周古直説ス同
 公東部ニ居ス一ニ年セソノ
 秋大ニ雷電メ爪吹成王
 ソノ時周古直制作ノ金勝馬
 見テ同古直ナキヲサトリモ
 フニ叔ノ説ヲ成王信シ玉フ
 天ヨリトカメテ今ノ傳也
 唐ノ周古直ニメカク也

次明石浦三朝キリノ言ト人ヲ思ヤルカナ

△明石

十

哥ト詞ヲ名トス

源平六ノ三月ヨリ七三アリ

(茶上ハ七歳七)

和ヨリ七三アリ

かと雨風やまど津なわきびまそぞ日比
 よなわぬと物わびーきことうぞーら
 ぞさうーこけさけうかーいありさぬー
 心だもーしえおほーあまだーいーせぬ
 ーうらとそおよーんともまじよた
 ゆりきたしうくていんしーしれうらとそ
 まきーわれぬうあうさー山とまもあそ
 やぬーかまーと覚えまもは波風ー
 さんがぶれてあんと人のいひけう入んと
 後れせまぞううらうぐあはれんとあふ

兼花物語
 卯の辰直播磨四
 名ヨリ太宰府ニナガサ
 玉ノ兼花物語ニミテ

長和三年三月雷鳴
水降大如梅

ヒラリ

るしとらしてまづいともしつてめんゆきど
もろぐとくしあどく^{カクゴトヘシロ}もきくひりか
とど^原京のこれとあぼせつおしうてか
^{果直ニテハ人ニテハ}まよ^原し出でてこそせの^原ま^原例のぬれと
やしあくちりて風し時ぐ吹出つて日^原は
なりわゆると例あぬとよおどろく^原ゆあわ
いと^原し^原ら^原の^原そ^原こ^原ほ^原り^原む^原ら^原の^原ひ^原あ^原り^原い^原づ^原ら
^{今ニテカウナルコナ}の^原ち^原い^原ま^原ぬ^原こと^原い^原ゆる^原ざ^原り^原い^原な^原ど^原い^原づ^原こ
さ^原ぬ^原よ^原お^原ど^原ろ^原う^原お^原ぢ^原り^原て^原と^原ろ^原う^原か^原め^原い^原と^原い^原れ^原
よ^原も^原心^原が^原そ^原さ^原ま^原ま^原ち^原り^原う^原く^原き^原つ^原せ^原い^原れ^原い^原い^原
ぬ^原べ^原い^原よ^原や^原と^原お^原ぼ^原ち^原ら^原く^原よ^原れ^原の^原ま^原い^原れ^原日^原乃

暁ちり見いづど吹志がこくみりて浪
の音あけいこといほし山もゆりまどれ
うーいづういづいぬりひくちくさぬうに
いんくちうてありちりぬと覚ゆりよ
あううざうあさ^原い^原い^原く^原なり^原い^原れ^原い^原う^原る^原い^原
み^原と^原お^原う^原て^原く^原ち^原い^原あ^原と^原み^原も^原ん^原ら^原
母^原も^原あ^原ひ^原い^原ぞ^原あ^原い^原あ^原この^原か^原と^原も^原み
で^原あ^原ぬ^原べ^原い^原い^原あ^原げ^原く^原あ^原し^原れ^原心^原と^原あ^原づ^原め
て^原な^原よ^原を^原う^原あ^原の^原あ^原や^原ま^原ち^原り^原よ^原そ^原う^原け^原な^原づ^原い^原さ
よ^原い^原の^原ら^原と^原い^原い^原こ^原ん^原し^原れ^原よ^原う^原あ^原う^原あ^原せ
ど^原い^原と^原物^原さ^原い^原い^原づ^原れ^原を^原あ^原これ^原み^原て^原づ^原
^{白帯前敬中 丑老 帯アリ}
^{洋幣}

しほりやかよこ八景詞
日本記塩心百重
金ト同しフキに

海人しあしあや^海しあしあやしあしあや

うさくかえしあしあやしあしあやしあしあや

あしあやしあしあやしあしあやしあしあや

しあしあやしあしあやしあしあやしあしあや

あしあやしあしあやしあしあやしあしあや

あしあやしあしあやしあしあやしあしあや

あしあやしあしあやしあしあやしあしあや

あしあやしあしあやしあしあやしあしあや

あしあやしあしあやしあしあやしあしあや

あしあやしあしあやしあしあやしあしあや

神トモ
サキ玉ノトキド
両方用はラノ本ニハ赤

あしあやしあしあやしあしあやしあしあや

あしあやしあしあやしあしあやしあしあや

あしあやしあしあやしあしあやしあしあや

あしあやしあしあやしあしあやしあしあや

あしあやしあしあやしあしあやしあしあや

あしあやしあしあやしあしあやしあしあや

あしあやしあしあやしあしあやしあしあや

あしあやしあしあやしあしあやしあしあや

あしあやしあしあやしあしあやしあしあや

あしあやしあしあやしあしあやしあしあや

あしあやしあしあやしあしあやしあしあや

寛平ノ仰ゴト天子ニ母
ナシトノ至テ其罪アリト云
「アリ」虎ヲ延喜ニ比スル
故ニ「マ」ノ「カ」

在妻 漫筆の時詩
弦月満彦果 猶疑 疑名在

うねるさびいさく密通 夕九じかりものしひきひきん 祇

し位ありし可あやまひとあうわーら

どよのぼしかりたりたれどそのつとを終

かう地獄はあててはよんてくさるわつたど

いどいさくはよまづいよとらよとらとく

て悔よろがぎいよよのわつとく困に

いどいさくはあてよ内裏よとらとくこと

らうよあかんいさこのがわつとくをさわ

おぬ中らうとふかしくていさくはあてん

となり中いさくはあてみあげおれぬ人もかく

て月のうかたさきくとしてあれ心ら

もせぞ原心いげしひいさくはあて心りしてをれ雲

あよふかびくういさくはあてらうもみま

らぞ慈しうおぼつたれはあてあかのか

しどいさくはあてみまうつたあてあてよおがし

おておくくかこといさくはあてあてあか

いさくはあていさくはあていさくはあてあ

よあていさくはあていさくはあていさくはあ

てあていさくはあていさくはあていさくはあ

どひいさくはあていさくはあていさくはあ

あよしあていさくはあていさくはあていさくはあ

とくづせしよまもつやみし流とこしきさうら
杯つり流しとさしよはあしらるるぞ暁がしよす
よりちがら流うよらにいやうあうおとせて人
二こくむらびびのやどちとさうてくあたに
ぐあんととくむの石のうらうらわら流ののみ
ちがられにみよとひてきわらうらり流のゆえ
さあひ流とて對面してこころの心とちりらん
とくづしよまもつやみし入道しうれぬめ
うくしよを弁ばあひさうひゆつれどわ
うはらうらあひさうしうとゆてことな
ゆせうとこしきさうらよらとさういさうらうら

徳意得意と

とくづしよまもつやみし
由愛

ゆめつと流のまどれよらうあうこつらん
とおばうくしよめれななととおばうらもせ
ふいととあうてはやあ入との流とて舟う
いさうてあひさうらうらうらうらうらうらうら
よ、流のちよらうあうてはうらんととあしうくお
むつとあひさうらうらうらうらうらうらうら
とあひさうらうらうらうらうらうらうらうら
うこしとあひさうらうらうらうらうらうら
がらうらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうら

コハ史記 殷本記 帝辛ナ
ノコトニ能叶ヘリ

よそいよまうらて得得しよらやうい雨
凡いづられどらうし得つれど人のみうど
よし愛を信じてとまうとせらうにらひ
かかす得けうとまらわのせぬとぬまうと
ひまうの目とまうとまうとまうと
Pゆんそと母し得つるよあやう
凡はと次て浦よれい得とぬとよ
津のうらぶたがえぞらんてまうと
しやせとや得つらんそらんとも
しやあははくはれどひまうと
まうの母びやうしはらんPまうと
まうと

南テタラ信メセリアルコ
ト勝計
但四ラタス
クルン未見
史記ニ叶
一三

昔も奇特ナド

奇怪

のやうらういともとまうとまうと
らとせとよれ人のまはらん後れ
やせしとらうとまうとらてぬとの赤れ
しやせとまうとらんととせくぬあつと
らとぬらと人わらぬらうとやらんと
つものくれとまうとまうと
つらみつと新らわよとまうとらとら
たくとらぬとのをしとまうとまうと
あびとらぬとまうとまうと

ツ、ミニテトイニテリ西のまうと
現在、常人

あびとらぬとまうとまうと
地うらうとまうとまうと

祝神告ヲヤ
花丹経、文不、退、直、答、コハ、封、メ、ク、ク、ゾ

さぬし 都三のうらむ 都三のうらむ 都三のうらむ 都三のうらむ 都三のうらむ
 だはちりてし 都三のうらむ 都三のうらむ 都三のうらむ 都三のうらむ 都三のうらむ
 ありし 都三のうらむ 都三のうらむ 都三のうらむ 都三のうらむ 都三のうらむ
 てうらむ 都三のうらむ 都三のうらむ 都三のうらむ 都三のうらむ 都三のうらむ
 せぬ 都三のうらむ 都三のうらむ 都三のうらむ 都三のうらむ 都三のうらむ
 ぬ 都三のうらむ 都三のうらむ 都三のうらむ 都三のうらむ 都三のうらむ
 い 都三のうらむ 都三のうらむ 都三のうらむ 都三のうらむ 都三のうらむ
 を 都三のうらむ 都三のうらむ 都三のうらむ 都三のうらむ 都三のうらむ
 文 都三のうらむ 都三のうらむ 都三のうらむ 都三のうらむ 都三のうらむ
 ど 都三のうらむ 都三のうらむ 都三のうらむ 都三のうらむ 都三のうらむ
 文 都三のうらむ 都三のうらむ 都三のうらむ 都三のうらむ 都三のうらむ

茶上座
 別子ニカケタトニル物
 ナラハカニシラニテセ
 ナクサニテニシ

文 都三のうらむ 都三のうらむ 都三のうらむ 都三のうらむ 都三のうらむ
 て 都三のうらむ 都三のうらむ 都三のうらむ 都三のうらむ 都三のうらむ
 文 都三のうらむ 都三のうらむ 都三のうらむ 都三のうらむ 都三のうらむ
 と 都三のうらむ 都三のうらむ 都三のうらむ 都三のうらむ 都三のうらむ
 く 都三のうらむ 都三のうらむ 都三のうらむ 都三のうらむ 都三のうらむ
 ぐ 都三のうらむ 都三のうらむ 都三のうらむ 都三のうらむ 都三のうらむ
 文 都三のうらむ 都三のうらむ 都三のうらむ 都三のうらむ 都三のうらむ
 ら 都三のうらむ 都三のうらむ 都三のうらむ 都三のうらむ 都三のうらむ
 し 都三のうらむ 都三のうらむ 都三のうらむ 都三のうらむ 都三のうらむ

のとへの家しねのひびくは浪の音よあひして心
 をせありわつる人冊下しあはるるそあまびつらめ
 さいなまよしとこころくまどいここれともも
 ねらむいあひんごもとせむらうウカレテくそと
 俗云凡ラヒト
 後凡といひくありく入をもええんでく供養
 法三密六度ノ行法ラズ
 何れもいひくそとせむらうあむよそいひ
 けし世中しとちえくそとせむらうくゆる後の
 世は福極示 歌舞ノ善達ひゆるありのあはれもあはれあ
 けしよれはゆるれとなくくあやまゆわが
 ね心よもありくのねあそびそのくはれあ
 ことあえわしと急のせしゆるあしよは

けてとにあぞしれねくちわさゆるみうどちり
 うどあまうてあそくくづいあぢあられあ
 ねくそ人のくしわがねあれあ極もえ
 ーせられてあれ心らーねまうよううな
 りーねつる心し心せくあゆあかん上通
 なみぐしとあああせとくよびあはれこ
 とちうあはやしてあまびくの法師あうて
 さいあしーうあづーいキイていもあつあ
 いさいぞくわさ前ノハキキれいしとあうこれ
 せういひさいぬしあはれあはれうあはれ
 あしーあ地しソシホドモキキあしありのあはれ

カカハツタニニ
或説渡御皇女繁子
内親王女官三丁幸
三丁ヨハセニ昔ヲ詔
玉ヲ

文集ノ既述引ハ
白樂天江列ノ同馬ニ
テ皮四尋湯江ノ上テ
船中ニ夜琵琶ヲ彈ス
ルキキト感ニ云テ
引モノハ商人ノ事ト云リ
源ラ樂天ニサラ商人ハ
一ナリ

こぞ^{コトヲ}や^原り^原流^原み^原や^原さ^原じ^原し^原し^原ら^原わ^原い
し^原し^原女^原らん^原ひ^原さ^原い^原ら^原め^原か^原り^原ら^原う^原さ^原が^原れ^原れ^原つ
ふ^原ら^原て^原女^原み^原ま^原ら^原の^原な^原の^原よ^原よ^原め^原し^原流^原
ら^原う^原と^原せ^原ら^原れ^原せ^原ら^原ら^原う^原ら^原う^原そ^原の^原け^原く^原あ^原る
く^原す^原し^原流^原ぐ^原て^原さ^原ら^原の^原せ^原よ^原ら^原と^原さ^原ね^原る^原人^原ぞ
し^原う^原な^原ら^原ぞ^原の^原心^原や^原り^原さ^原ら^原り^原よ^原れ^原し^原あ^原ら^原と^原さ^原ら^原よ
ら^原の^原さ^原こ^原こ^原あ^原流^原く^原ら^原ら^原い^原と^原ら^原う^原さ^原げ^原ら^原と
か^原ら^原う^原ぞ^原う^原ま^原き^原く^原べ^原う^原い^原と^原の^原流^原み^原し^原め^原ら^原ん^原よ
何^原れ^原も^原ら^原ら^原ら^原ら^原ら^原ん^原あ^原ま^原ん^原よ^原め^原し^原て^原も^原何^原ら^原い
ぐ^原の中^原も^原そ^原ぞ^原う^原よ^原と^原さ^原ら^原と^原ま^原き^原く^原も^原や^原せ^原ん
も^原ゆ^原ら^原れ^原び^原じ^原う^原ん^原ゆ^原し^原の^原み^原と^原ひ^原さ^原い^原と^原ぞ^原う

催馬
イセノ海ノ清キ者ニホコヒ
ナリソヤツシニカレヤヒロヒ
玉ヤヒロヒ

し^原ら^原ん^原よ^原し^原し^原ら^原う^原ら^原う^原と^原あ^原い^原く^原と^原ら^原い
こ^原ら^原う^原と^原な^原ら^原う^原あ^原ら^原う^原い^原の^原な^原ら^原と^原せ^原ら^原と
よ^原な^原ん^原い^原ぞ^原な^原ら^原う^原よ^原う^原ら^原ん^原何^原ら^原い^原流^原れ
い^原志^原よ^原ま^原ま^原ら^原あ^原ら^原う^原し^原ら^原ふ^原ら^原れ
な^原ら^原う^原ら^原い^原し^原ら^原う^原の^原な^原ら^原う^原し^原ら^原い^原と^原ま^原ら^原う^原ら
ふ^原ら^原く^原し^原ら^原う^原ら^原ら^原ら^原と^原せ^原ら^原わ^原れ^原ら^原い^原と
そ^原う^原て^原さ^原ら^原れ^原し^原と^原ら^原う^原ら^原て^原流^原を^原せ^原ら^原わ
げ^原よ^原し^原と^原せ^原ら^原う^原て^原い^原ひ^原ら^原う^原ら^原い^原ま^原れ^原よ^原。
あ^原し^原ぬ^原せ^原ら^原い^原ら^原う^原つ^原けて^原ま^原だ^原ひ^原と^原ら^原う^原ら
あ^原し^原ぬ^原せ^原ら^原い^原ら^原う^原つ^原けて^原ま^原だ^原ひ^原と^原ら^原う^原ら
あ^原し^原ぬ^原せ^原ら^原い^原ら^原う^原つ^原けて^原ま^原だ^原ひ^原と^原ら^原う^原ら

の祓ひのまじりたるものをしていざば人とならう
かいつぬ(泣)とて人念ど一ゆるちたれぬの
らぎちたていざうていそくはあーい(泣)
づつとてあゆげぬや(泣)杖のくわのよと
らぬ(泣)うさ(泣)みづ(泣)くわ(泣)の(泣)民(泣)と(泣)り
て(泣)う(泣)れ(泣)い(泣)く(泣)さ(泣)の(泣)お(泣)も(泣)り(泣)ま(泣)よ(泣)う(泣)ん(泣)ん
何のま(泣)よ(泣)う(泣)り(泣)ゆ(泣)ん(泣)と(泣)あ(泣)く(泣)る(泣)ゆ(泣)と
う(泣)れ(泣)い(泣)じ(泣)ま(泣)れ(泣)い(泣)お(泣)り(泣)い(泣)め(泣)じ(泣)あ(泣)り(泣)ん(泣)ゆ(泣)ら
い(泣)よ(泣)う(泣)て(泣)お(泣)の(泣)い(泣)う(泣)い(泣)人(泣)よ(泣)な(泣)ん(泣)ん(泣)と(泣)な(泣)ん(泣)心
やう(泣)い(泣)よ(泣)う(泣)り(泣)程(泣)く(泣)よ(泣)れ(泣)け(泣)て(泣)あ(泣)ま(泣)る(泣)の(泣)あ
その(泣)い(泣)と(泣)あ(泣)ひ(泣)ま(泣)れ(泣)ら(泣)う(泣)い(泣)ま(泣)い(泣)め(泣)よ(泣)み(泣)ら(泣)ぬ

若狭巻 代ノ回ノ司ナドナレバ(シ)スレド更ニウケトカズトナリ
イリノ(泣)あ(泣)つ(泣)て(泣)

くもあやしくゆれど(泣)う(泣)ら(泣)よ(泣)く(泣)う(泣)ー(泣)い(泣)よ(泣)さ(泣)ひ

泣く(泣)ぞ(泣)余(泣)れ(泣)う(泣)ぎ(泣)あ(泣)く(泣)せ(泣)ま(泣)る(泣)い(泣)袖(泣)も(泣)し(泣)と(泣)ぐ

い(泣)ゆ(泣)り(泣)ん(泣)く(泣)み(泣)い(泣)ら(泣)ん(泣)せ(泣)て(泣)ゆ(泣)な(泣)む(泣)海(泣)中(泣)

あ(泣)し(泣)ま(泣)ま(泣)ー(泣)あ(泣)い(泣)う(泣)せ(泣)ひ(泣)と(泣)り(泣)ん(泣)あ(泣)う(泣)そ(泣)ゆ(泣)ら(泣)ま(泣)ど

あ(泣)い(泣)て(泣)ま(泣)ま(泣)の(泣)い(泣)ぶ(泣)く(泣)し(泣)ら(泣)ぬ(泣)と(泣)こ(泣)も(泣)よ(泣)う(泣)ら

な(泣)れ(泣)く(泣)ま(泣)め(泣)も(泣)ゆ(泣)よ(泣)ぬ(泣)ぐ(泣)さ(泣)う(泣)ー(泣)ゆ(泣)く

あ(泣)れ(泣)い(泣)い(泣)う(泣)ら(泣)な(泣)み(泣)ぐ(泣)い(泣)づ(泣)つ(泣)い(泣)こ(泣)ー(泣)先(泣)せ

よ(泣)い(泣)こ(泣)ぬ(泣)め(泣)は(泣)い(泣)い(泣)ら(泣)う(泣)り(泣)て(泣)い(泣)ひ(泣)う(泣)け(泣)ぬ(泣)世(泣)界(泣)

い(泣)ご(泣)よ(泣)し(泣)な(泣)あ(泣)れ(泣)は(泣)い(泣)い(泣)う(泣)ー(泣)あ(泣)は(泣)つ(泣)ら(泣)な(泣)く(泣)さ

け(泣)ら(泣)よ(泣)い(泣)い(泣)い(泣)ぬ(泣)め(泣)の(泣)ぐ(泣)あ(泣)よ(泣)ま(泣)ら(泣)ん(泣)た(泣)れ(泣)ど

げ(泣)よ(泣)あ(泣)い(泣)い(泣)ぬ(泣)め(泣)の(泣)せ(泣)れ(泣)あ(泣)う(泣)よ(泣)と

右金ヨシノヒサス
ノブセフニハコトシテ
て色に出ト思シモ
ハヨシノヒサス
建シノヒサス

ふらひのうららりてきこえりるわいりよ
まじり目のひらつていよぶよれあはれい
とよまづいふあはれし中
ゆのらぬいぞあはれあつりし中
つらとさげひひりてこはの
れこよえあはれいひつくりひて

とらこらしうぬまわよたあまびり
とらやどの本末よぞうまよよとさ
とらやあつらんをし人これぞ
とらあはれわいりりしとらあはれつひ
とらまをいひまぞ
とらまをいひまぞ

ヨシノヒサス
カレニサツ首ハ袖ニツミヤリ
今宵ハオモエリヌルカチ
カレニサツ首ハ袖ニツミヤリ
タモトユカニタテトイハミヤ

うららりよ入てきこえりるわいりよ
まじり目のひらつていよぶよれあはれい
とよまづいふあはれし中
ゆのらぬいぞあはれあつりし中
つらとさげひひりてこはの
れこよえあはれいひつくりひて

ヨシノヒサス
カレニサツ首ハ袖ニツミヤリ
今宵ハオモエリヌルカチ
カレニサツ首ハ袖ニツミヤリ
タモトユカニタテトイハミヤ

を流しとどしおほり流れはとどしなりわ
んし^{清河}いせろくしとあしと受て^{西后}
う流し^{清河}も流れれど^{西后}なよどやうそみ
どれ^{清河}う^{清河}あしひ^{清河}なり^{清河}つり^{清河}も^{清河}い^{清河}さ^{清河}を^{清河}流^{清河}
^{清河}が^{清河}ぐ^{清河}あ^{清河}し^{清河}や^{清河}う^{清河}し^{清河}あ^{清河}ど^{清河}う^{清河}く^{清河}ま^{清河}ど^{清河}こ
し^{清河}あ^{清河}し^{清河}流^{清河}し^{清河}く^{清河}こ^{清河}流^{清河}し^{清河}よ^{清河}み^{清河}あ^{清河}し^{清河}を^{清河}流^{清河}す^{清河}
う^{清河}け^{清河}よ^{清河}や^{清河}同^{清河}も^{清河}つ^{清河}ひ^{清河}あ^{清河}て^{清河}ん^{清河}ど^{清河}う^{清河}な^{清河}
や^{清河}こ^{清河}流^{清河}れ^{清河}し^{清河}く^{清河}し^{清河}ら^{清河}よ^{清河}も^{清河}交^{清河}よ^{清河}し^{清河}う^{清河}ど^{清河}あ^{清河}
なり^{清河}く^{清河}さ^{清河}し^{清河}を^{清河}流^{清河}す^{清河}お^{清河}し^{清河}も^{清河}う^{清河}せ^{清河}流^{清河}ぬ^{清河}し^{清河}と^{清河}あ^{清河}り^{清河}
れ^{清河}は^{清河}よ^{清河}し^{清河}ひ^{清河}な^{清河}れ^{清河}ど^{清河}れ^{清河}ぶ^{清河}く^{清河}よ^{清河}し^{清河}の^{清河}づ^{清河}し^{清河}さ^{清河}
し^{清河}ぎ^{清河}し^{清河}こと^{清河}あ^{清河}り^{清河}よ^{清河}本^{清河}交^{清河}も^{清河}た^{清河}こ^{清河}し^{清河}う^{清河}こと^{清河}な^{清河}く

七十一

まづ^{清河}い^{清河}流^{清河}て^{清河}流^{清河}れ^{清河}ど^{清河}よ^{清河}し^{清河}り^{清河}流^{清河}ぬ^{清河}し^{清河}か^{清河}り^{清河}内^{清河}
よ^{清河}お^{清河}が^{清河}り^{清河}な^{清河}げ^{清河}く^{清河}し^{清河}も^{清河}あ^{清河}ら^{清河}ぐ^{清河}う^{清河}り^{清河}れ^{清河}し^{清河}流^{清河}れ^{清河}
の^{清河}ま^{清河}は^{清河}し^{清河}よ^{清河}し^{清河}も^{清河}な^{清河}れ^{清河}も^{清河}て^{清河}く^{清河}ま^{清河}づ^{清河}じ^{清河}
な^{清河}し^{清河}も^{清河}う^{清河}あ^{清河}ら^{清河}ど^{清河}し^{清河}し^{清河}り^{清河}ひ^{清河}あ^{清河}り^{清河}な^{清河}ん^{清河}と^{清河}な^{清河}ん
あ^{清河}し^{清河}流^{清河}い^{清河}ま^{清河}れ^{清河}も^{清河}の^{清河}く^{清河}あ^{清河}し^{清河}も^{清河}流^{清河}い^{清河}て^{清河}ん^{清河}
い^{清河}び^{清河}く^{清河}う^{清河}り^{清河}の^{清河}流^{清河}し^{清河}の^{清河}ま^{清河}ど^{清河}う^{清河}り^{清河}ぐ^{清河}
あ^{清河}れ^{清河}や^{清河}り^{清河}な^{清河}ら^{清河}べ^{清河}し^{清河}し^{清河}よ^{清河}あ^{清河}ら^{清河}て^{清河}お^{清河}し^{清河}き^{清河}わ
し^{清河}く^{清河}し^{清河}も^{清河}い^{清河}し^{清河}も^{清河}あ^{清河}ら^{清河}て^{清河}お^{清河}し^{清河}き^{清河}わ
し^{清河}く^{清河}し^{清河}も^{清河}い^{清河}し^{清河}も^{清河}あ^{清河}ら^{清河}て^{清河}お^{清河}し^{清河}き^{清河}わ
し^{清河}く^{清河}し^{清河}も^{清河}い^{清河}し^{清河}も^{清河}あ^{清河}ら^{清河}て^{清河}お^{清河}し^{清河}き^{清河}わ
し^{清河}く^{清河}し^{清河}も^{清河}い^{清河}し^{清河}も^{清河}あ^{清河}ら^{清河}て^{清河}お^{清河}し^{清河}き^{清河}わ

くづりまをりひひめれし心だより
あつげなひひりし心くわつげなり
よあかつし心よあつげなり
にそりかやありな心けなり
とれまぬよこぐり心くまよらんそく
わつたれなぞみぬれし心くわつげなり
ろいし心らんよをみせぬか
本丁のひし心くれし心くわつげなり
らしげし心くわつげなり
つさぬさぐりる程きそか
これ心くわつげなり

げよの流

れまもなりし心くわつげなり
あつげなりし心くわつげなり
まよりて心くわつげなり
あつてし心くわつげなり
どこの心くわつげなり

ムツトモニ多ク明ケリ
イツス秋ノナカシテ夜ハ
ナカト思ハステ又昔ヨリ
逢クヤラフ秋ノ夜ナシバ

よそびえして心ころころとけらひのぞき
くろあかがりなかりりりり笑と覺せよしあ
しぞ夜なつち心ころころのらりぬりり
なうぐしはひのいとしとてなれなづ
しうくあけぬらりられく人よきれど
と覺せし心あしうきうてこぬ
ひとこそおぬぬあしと悲びてぞ
あつめひがういん心のよなうりや
うことぞもきとけりみてはれい
しくきくしもてかぬとけりひ
おんりくてのらひ悲びつ時おんせ

キトシ先ハ又ホソキトモニ
キトシ先ハ又ホソキトモニ

キトシ先ハ又ホソキトモニ

後館ヨリ置邊

物アコガナクテ京ヘキコハガたせ身ハ不リ

然ト思テ夜ガシバ
ス明者上ハ
カバヨト
ヲボス

もせうしそなれらうよあつとぬいさが
なれあまれこもやうらまざんとぞ
そぐうの程とぞねどよとあひなげ
とげようなうんと入るも極玉の祓ぐ
とわかれてぶぶれと氣父と情とよいせ
今うさよ心とみづらしとくあげ
二条の恋れ凡のたてよしむりや
したんあれそとらつてありらると
うしそれをいん心グ
おぼろくもあれがらう心づ
なわしとくこれ

キトシ先ハ又ホソキトモニ
キトシ先ハ又ホソキトモニ

ヨシノシラス
同シク八君ナラハ池ニコソ
オソナケトモ人ニイヒテ

カノ海ニイリキコト
いまだぞいふことよ ~~か~~しなげけいべい ~~い~~ちらえら
トシヨリ先
り末ニド ~~け~~なうあやむり ~~と~~あり
こ物もそいづれよに人なうこくよ ~~な~~る
こい ~~か~~と ~~い~~あ ~~い~~ざ ~~わ~~ー ~~う~~じ ~~ど~~ ~~さ~~ ~~い~~ ~~こ~~ ~~ん~~ ~~と~~
あくて ~~ま~~ ~~が~~ ~~つ~~ ~~ろ~~ ~~う~~ ~~な~~ ~~い~~ ~~な~~ ~~う~~ ~~と~~ ~~と~~ ~~心~~
と ~~し~~ ~~な~~ ~~や~~ ~~ま~~ ~~ー~~ ~~ら~~ ~~ん~~ ~~う~~ ~~い~~ ~~ん~~ ~~ど~~ ~~う~~ ~~物~~ ~~心~~ ~~と~~
こ ~~う~~ ~~に~~ ~~も~~ ~~あ~~ ~~り~~ ~~ら~~ ~~れ~~ ~~と~~ ~~い~~ ~~ひ~~ ~~て~~ ~~ま~~ ~~し~~ ~~ら~~ ~~り~~
こ ~~ー~~ ~~ら~~ ~~し~~ ~~も~~ ~~ら~~ ~~げ~~ ~~よ~~ ~~う~~ ~~あ~~ ~~ー~~ ~~ら~~ ~~れ~~ ~~ど~~ ~~あ~~ ~~づ~~ ~~て~~
こ ~~よ~~ ~~し~~ ~~な~~ ~~う~~ ~~て~~ ~~い~~ ~~ら~~ ~~く~~ ~~い~~ ~~ま~~ ~~は~~ ~~ぬ~~ ~~よ~~ ~~こ~~ ~~を~~ ~~ま~~ ~~ら~~
~~毎~~ ~~と~~ ~~い~~ ~~日~~ ~~よ~~ ~~そ~~ ~~人~~ ~~て~~ ~~ま~~ ~~ま~~ ~~せ~~ ~~ど~~ ~~あ~~ ~~ん~~ ~~と~~
か ~~う~~ ~~こ~~ ~~い~~ ~~れ~~ ~~ば~~ ~~つ~~ ~~つ~~ ~~な~~ ~~く~~ ~~て~~ ~~奔~~ ~~な~~ ~~と~~ ~~こ~~ ~~い~~ ~~ー~~

流 ~~ぐ~~ ~~て~~ ~~あ~~ ~~い~~ ~~ざ~~ ~~ら~~ ~~ら~~ ~~の~~ ~~ひ~~ ~~よ~~ ~~こ~~ ~~を~~ ~~流~~ ~~ん~~ ~~が~~ ~~と~~
心 ~~ぐ~~ ~~ー~~ ~~ら~~ ~~れ~~ ~~ど~~ ~~い~~ ~~と~~ ~~わ~~ ~~が~~ ~~ー~~ ~~ら~~ ~~も~~ ~~そ~~ ~~う~~ ~~流~~
流 ~~と~~ ~~さ~~ ~~ぬ~~ ~~ぐ~~ ~~ー~~ ~~い~~ ~~あ~~ ~~つ~~ ~~あ~~ ~~て~~ ~~さ~~ ~~よ~~ ~~こ~~ ~~と~~ ~~い~~ ~~ま~~ ~~と~~
こ ~~こ~~ ~~つ~~ ~~け~~ ~~ら~~ ~~う~~ ~~こ~~ ~~と~~ ~~こ~~ ~~い~~ ~~ま~~ ~~は~~ ~~ぬ~~ ~~よ~~ ~~と~~ ~~か~~ ~~ー~~
流 ~~ア~~ ~~ー~~ ~~え~~ ~~ん~~ ~~の~~ ~~心~~ ~~よ~~ ~~ち~~ ~~こ~~ ~~め~~ ~~ど~~ ~~い~~ ~~物~~ ~~の~~ ~~き~~ ~~ぬ~~ ~~り~~
い ~~ぞ~~ ~~う~~ ~~ぞ~~ ~~う~~ ~~よ~~ ~~う~~ ~~い~~ ~~ま~~ ~~は~~ ~~ぬ~~ ~~ん~~ ~~ニ~~ ~~糸~~ ~~れ~~ ~~ま~~ ~~も~~ ~~し~~
物 ~~象~~ ~~よ~~ ~~あ~~ ~~い~~ ~~ま~~ ~~し~~ ~~う~~ ~~い~~ ~~ま~~ ~~く~~ ~~あ~~ ~~は~~ ~~し~~ ~~流~~ ~~け~~ ~~く~~
あ ~~い~~ ~~ま~~ ~~ど~~ ~~や~~ ~~ー~~ ~~よ~~ ~~流~~ ~~と~~ ~~こ~~ ~~い~~ ~~ち~~ ~~つ~~ ~~あ~~ ~~流~~ ~~つ~~ ~~や~~ ~~ぞ~~ ~~わ~~
か ~~い~~ ~~ま~~ ~~の~~ ~~候~~ ~~と~~ ~~日~~ ~~死~~ ~~め~~ ~~あ~~ ~~う~~ ~~よ~~ ~~う~~ ~~い~~ ~~流~~ ~~け~~ ~~り~~ ~~あ~~ ~~り~~
づ ~~こ~~ ~~い~~ ~~に~~ ~~あ~~ ~~り~~ ~~ま~~ ~~は~~ ~~ぬ~~ ~~こ~~ ~~い~~ ~~ま~~ ~~あ~~ ~~ん~~ ~~の~~ ~~い~~ ~~ま~~ ~~は~~ ~~ぬ~~ ~~り~~
な ~~う~~ ~~ら~~ ~~り~~ ~~よ~~ ~~れ~~ ~~く~~ ~~あ~~ ~~り~~ ~~れ~~ ~~と~~ ~~あ~~ ~~り~~ ~~て~~ ~~世~~ ~~申~~ ~~さ~~ ~~ぬ~~

何れめなほどふなよとせ原せばいよ表づれつるか
うひの流さ月をさりうり心づかすいさき見交
ありて明石上持姓なりうり原くわれ流べい福たれ
とちやにしくうらよやありらん右ヨリわーよ
こも後よおぼしと右わさう物ありまべい
みよもさうられとさういさう右女いさ
まもいさぞさひきづこさあ地こととさあや
このおよく左かこみりよいぞさう流一
うどたわよいゆさいあぐり取京ういなんとさいお
ほーなうぶさあーい右びいうわーいさ
れいぞさうらめ右やいさううらうとさ
と受

此よ長がうりうらう人ごも程くよつけ
ていさうういさ系うりしはじんよ人ご系
ア心らうげうらうとあ明のえあ、洞よれ
て月も七月いぬ秋福人長がうり元れ気交よ
がぞ原やうづいさいさし好色道ラム
こもよさめさイヌツラノオスラノトうせうんとさあぬぐ
よさうーさうう心とさあう人ごん何れよく
例のいくせだとみさうりじ禁止ナドスレうらうり原月原は
ばわ人ようーさうせせ時ぐくいますうれか
どーあうけれなさとハヤ取京ノ此はわやうくよか
うく人いさうーさうし人シ批判スルトいさうか良書わ細か

さねのらびとれこゝねえんかまこしりてい

わくしりまのこゝよとのね出ストねハカテ

かどざりよのめとくわろじハカテことハカテ

うせぬおらやけて思ひんハカテなハカテ

くらせうひとらハカテねてハカテ

原 季すぞのこころはらびら申れとのハカテ

べんハカテことハカテよハカテうハカテらハカテんハカテ補ハカテいハカテ

ふいよなふぞあひんハカテとハカテめハカテねハカテありハカテ

ふれどさわらんハカテ程ハカテのハカテわりハカテなるハカテことハカテあハカテひハカテ

いせハカテろハカテしハカテとハカテもハカテわハカテなハカテらハカテあハカテいハカテらハカテねハカテ曉ハカテ

えハカテかハカテうハカテせハカテねハカテてハカテいハカテじハカテふハカテのハカテ人ハカテどハカテいハカテいハカテづハカテ

ふれど心ハカテもハカテさハカテらハカテなハカテれハカテどハカテくハカテまハカテはハカテくハカテしハカテひハカテてハカテ

原 うらそハカテてハカテいハカテらハカテしハカテうハカテなハカテらハカテいハカテ浦ハカテなハカテこのハカテ

なハカテあハカテいハカテよハカテとハカテあハカテひハカテやハカテらハカテぬハカテいハカテらハカテいハカテ

原 一ハカテはハカテらハカテこハカテすハカテわハカテしハカテあハカテれハカテてハカテらハカテいハカテらハカテいハカテ浪ハカテれハカテ

くハカテらハカテいハカテよハカテやハカテめハカテとハカテいハカテづハカテまハカテしハカテらハカテいハカテらハカテえハカテ

くハカテらハカテいハカテがハカテらハカテとハカテみハカテのハカテよハカテいハカテまハカテびハカテのハカテ人ハカテどハカテほハカテろハカテ

くハカテしハカテこハカテほハカテれハカテぬハカテこハカテぬハカテ人ハカテどハカテくハカテれハカテらハカテれハカテはハカテ後ハカテ

かなれどハカテうハカテらハカテとハカテいハカテづハカテまハカテしハカテらハカテいハカテらハカテぬハカテくハカテ

ふハカテいハカテまハカテいハカテとハカテあハカテはハカテせハカテいハカテしハカテあハカテらハカテいハカテとハカテぞハカテいハカテ

かハカテどハカテみハカテなハカテらハカテいハカテ良ハカテ流ハカテなハカテもハカテどハカテいハカテらハカテりハカテなハカテらハカテいハカテぞハカテ思ハカテえハカテ

せハカテなハカテやハカテりハカテいハカテとハカテいハカテくハカテぞハカテとハカテらハカテいハカテらハカテいハカテきハカテよハカテ

しげよらふとらふとらふよはひなうごいささよわん
コトイゴのいど長びりてくららぐきぬされよ
あふることもしあふりさしと何ういふらん
入道ふれはまうけいといふやうこれいふ
はれり人ごちもれまかまぐて猿のささぐく
あぐらういさぬりいれぬまにうさあへけ
いとみいさうれはよさひいぶくもあふさ
しとひいあまういけさあそせぬとれこ
やこのはしよちりべいれよくらおなごめん
づいてさひいぬくぬなりーくまもるべい
た近ノしシギクハナキ
しりのれさうぞくよ

入る、
衣袋シ
我回セトナシ
しホタシタレノ早下し
よらうはよらうらうらうらうらう
やんのいとしんごあうとれらんどつけ
てこいざうれと

形見
コキウモオニトシ
入るト原トノ
キアサセ
よいまいそく
白ア
みふありえなぬれはよ白ひのうらうら
といぶんのいもしちあうん入るいよんと
せよとあれぬらよーかたれぬいよとの
いよらうはれいよまうけいささよわん

兼伸
人鏡心六箇三ア子尾
チヲシテ送ニヨヒスガ

エニラヌスロフトテカイマツクルトシナクハ
ひとれけりしむいしあみぎくわうしん

らひぬべし

徳ニヨスナリ世ヲイトフフハ
よとらうしうたらあがし男となり

身ニハヒ世今日ハ此市送リヨシエハシヌ
てればまじしとえしむる心福心のやしハ

いもまのひぬべくゆれむ
セラシクラセンモトスル

とあして
ハリニサカイヌイツマサカイハ
赤の糸上ラ

そとせぬありゆる
清徳スルル
れ気及ぬしん

いふとら物と名と号して
チレトテサカ
あごうりあう

みあつらほのこれわらわな
怪性
いんこく

しんあひぬべく
いせらしあせむ

いまいしんく
サカト
みあつらぬてんいせい

とみせそごころれいふ
いんこく

原
於ぞし喜れあげ
いよとくや奔

少浦と別ぬら秋とそ
のこひぬけり

よもど物
きほつたよのう
まわしあ

まううら
がま
うとこの心
あはたあ

こころ
なりくて
タシモ
いんこく

まらむれど
根本身ノウキニヨリテ
思ハドモ恨ルトシ

ふこ
となれど
ツレモニアラ

ぬなれよ
西航をひて
はせれ
うたよ

けい
こころ
なみ
よま
び
あ
り
母
君
も

あ
ぐ
あ
ら
び
て
何
よ
く
心
げ
り
う
ら
こ

成スルワサトアハ

取せうてなづかひなきえまのうで流し
ぞことならぬせうえいあどなうてい
ふしつねぬ二条院よあまのついで
おれ人しにこしれ人しあめ心ちしてゆ
いあひよりうらびなりさしゆきこまぞ
立さしむらあ女まもひなりいゆよあは
しそつらつらあちらうましうあはらる
いししどらひらうげよ福ひそのか
あてねあひの程よ取せらわらう
のそうをびるもしうらあぞ
いそまうくてみるうぞしと心

長作

道
ロラレ身ヲ入思マ哲言
人ノ命ヲモシムルヤナ

おらわぶよはけていさうれあぞわ
れ一人のあうらぬらうぞや
らぶれよしたまうらうて心めい
まぞなうさやそのくれもなぞあ
であうもぼりあうらあ
こゆうとあみぞやみなりあ
となのらぞみやあさぞあはのあ
流ぞあうらうらうらあしあ
よぶよあぬれあぞあぞあ
あぞあうらうらああ
あうらあああ

原
らびげ海よ三つこころあれひか
のり
海へむいよと長よ心を
文を
文を
文を

一それ恨のこそ風とかなものありし
み極なりわの境のれいありし海とこ
うしこまのけいそくを流すま
うよなりくおよそけいそくを流す
一うらこび流すを恨なりく長と
流れがえしこよなりく海とせ流す
り流るんよまごりありまごり

君カス海宿ニキリカハ
我々ナケクイキトミラセ

蟻 虫名也 卷交ノカ
規ノ如ク大ニ目ノカ
ヒレガクシニラキカ
シキ振舞ト云ニツク
セトハ其テイラクル
定書ニ説ニキ
膝カクニ摩悪
那岐 日本記

みえと流るの文もし心そ
対面の程も長なりと
海にやられぬ石よ海に流す
流るそしこころてこ海や

原
款
くそさやう風がれ師のしそめ
いあぐく人たれぬお
まふか
そ海のうらよ心とせし舟
そ海のうらよ心とせし舟

よなるまのつらやよらうとみおほせあて

子持トミツケテ

れりし也

^原みろそい^{ヤナシカクノミ}せまごせさちしち

ごらよ^原袖のひごいあーとらうぞあう

とあはちくあはれぞあうらうら

てやごさういげれどはいさあ^母これ

やうまひうらよけくとあうらうら

あどよしとせはせいそこあうらうら^{文ハツレテハ}

つあく^{ラモトスダケ}中しうげなり^{トノ字ヲラシ}るんせ

まきぞやう

